

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和２年度の業務実績に関する評価結果

小項目評価

福岡市立病院機構の概要

1 現況（令和2年4月1日現在）

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号

③ 役員の状況

役員	氏名	備考
理事長	原 寿郎	福岡市立こども病院 院長
副理事長	桑野 博行	福岡市民病院 院長
理事	石原 進	九州旅客鉄道株式会社 相談役
	久保 千春	九州大学 総長
	神坂 登世子	国際医療福祉大学 九州地区生涯教育センター 副センター長
	野中 耕太	運営本部 運営本部長
監事	久留 和夫	公認会計士
	柳澤 賢二	弁護士

④ 設置・運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

⑤ 職員数

（令和2年5月1日現在）

区 分	職員数
合 計	1,033人
福岡市立こども病院	621人
福岡市民病院	400人
運営本部	12人

2 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

1 法人の総括と課題

令和2年度は、福岡市から示された第3期中期目標期間の最終年度であったが、令和2年1月に国内で確認された新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の感染拡大の影響が本格化し、地域における病床の逼迫や緊急事態措置による行動制限、新しい生活様式の定着など、例年と大きく異なる社会状況・医療環境の中で、市立病院としての役割を果たすため、コロナ対応のための体制整備を迅速に行い、感染拡大の初期段階から患者を積極的に受け入れるとともに、病院機能を可能な限り維持し、更にこれらの機能の強化や経営の効率化等に取り組んだ。

コロナ対応については、両病院ともに対策本部を立ち上げ、院内の感染防止対策の徹底や研修の実施、人員の確保、資機材の調達など、診療体制を整備し、疑似症を含む患者の受入を積極的に行った。特に、福岡市民病院においては「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」としてコロナ専用病床を確保し、中等症以上の重症患者を中心に積極的な患者受入れに取り組むなど、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たした。

一方、令和2年度の年度計画については、コロナ禍における医業収支の見通しが困難であったためコロナの影響を反映していない計画とせざるを得なかったが、その後の状況を踏まえ柔軟に取組を見直しつつ、福岡市立こども病院においては、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を、また、福岡市民病院においても、食道疾患センターを新設するなど、高度専門医療の更なる充実を図った。

経営収支面では、コロナの影響による受診控えなどから患者数が減少し、医業収益は令和元年度から法人全体で9億円余減少したが、増収対策として診療報酬改定を踏まえた施設基準に必要な運用方法の見直しや新規手技の導入などに、また、費用削減として診療材料等の選定や価格交渉の徹底などに取り組んだほか、コロナ対応に係る国や県からの補助金の交付もあり、当期純利益は福岡市立こども病院において4億8千万円余、福岡市民病院において7億円余となった。

今後の課題としては、コロナの影響により厳しい経営環境が継続するものと考えているが、両病院ともに、引き続き感染症への対応を適切に行うとともに、福岡市立こども病院においては、求められる高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、医療環境の変化を踏まえながら、医療機能等について検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院においては、地域医療構想及び医療計画にて地域で必要とされる高度専門医療並びに救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害時や感染症等発生時などの緊急時には、事業継続計画に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

2 大項目ごとの取組状況及び特記事項

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、4月にCOVID-19対策本部を設置し、「福岡県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関」としてコロナ病床の確保や環境の整備など、小児のコロナ対策に取り組んだ。また、コロナ対応以外では、胎児循環器科において、関係診療科と協働し、胎児診断に基づく適切な出生後治療の連携を強化したほか、新たに設置した入退院支援推進チームにより、患者情報の聴取と入院に関するオリエンテーション等を入院前に実施し、安心して入院医療が受けられるよう支援するなど診療機能の強化・充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、コロナ対策本部を設置し、行政や他の指定感染症医療機関等と緊密な連携をもちながら、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」としてコロナ専用病床を確保し、中等症以上の重症患者を中心に積極的な患者受入れに取り組むなど福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすとともに、コロナ以外の対応においても、食道疾患センターを新設するなど高度専門医療の更なる充実を図った。

また、コロナ禍においても、両病院ともにWebなどを活用しオープンカンファレンスを実施するなど、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めた。

2 患者サービス

患者一人ひとりに質の高い医療及び充実した看護を提供することが患者サービスの基本と捉えたうえで、より一層の接遇改善を含め、職員が一丸となって患者サービスの向上に取り組み、患者満足度の向上に努めた。

福岡市立こども病院においては、接遇・療養環境委員会が中心となって、患者アンケートの中から対応可能な案件について迅速に対処・実行し、病棟への無料Wi-Fiを設置するなど、患者サービスの向上を図った。

福岡市民病院においては、患者サポート相談窓口での対応分をCS（Customer Satisfaction）委員会に報告して情報を共有し、適切に対応した。また、病室・デイルームの壁紙貼り替えや外来待合室の椅子を更新する等、院内環境の整備を行った。

さらに、両病院ともに、市民や医療関係者等に対して最新の病院情報を発信するとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にも分かりやすく解説するなど、市民に開かれた病院づくりに努めた。

3 医療の質の向上

医師事務作業補助者の増員及び特定行為看護師の育成等により「医師の働き方改革」を進めるとともに、ワークライフバランス推進委員会において、引き続き、年休の取得率向上に取り組むなど、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した。また、Webを活用した研修や説明会を実施して、職員の資質向上や人材確保に努めた。

福岡市民病院においては、令和2年2月に厚生労働省より「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為に係る看護師の指定研修機関の指定を受け、医師をはじめとした各職種の協力体制のもと運営に取り組み、令和2年度は3名が修了した。

両病院ともに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、医療安全研修会の開催や院内各部署への迅速な情報共有等を通じて、職員の安全対策に対する意識向上を図るなど、医療安全対策の強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

市立病院機構の運営を的確に行うため、令和2年度は計9回の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿って自律的な運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や経営五役会議等を開催し、各病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組むとともに、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、機構全体的な視点から、市立病院として適切な法人運営に取り組んだ。

2 事務部門の機能強化

資質向上を目的とした研修を実施するとともに、システムエンジニアを1名増員し、システムの見直しを行うなど事務の簡素化・効率化等に努めた。

また、福岡市立こども病院において、RPA（Robotic Process Automation）による給与明細の電子メール配付の試行や、ワークフローシステムによる院内の申請・承認・決裁業務の電子化を開始するとともに、各部署から選出したメンバーで構成するDX（Digital Transformation）ワーキングチームを立ち上げ、ICT（情報通信技術）導入による業務効率化に多角的に対応するための検討を開始した。

3 働きがいのある職場環境づくり

職員が安心して働き続けることができるよう、発熱やコロナによる小学校休業に係る特別休暇の整備など、福利厚生の充実に取り組むとともに、年次有給休暇の積極的取得等、職員の仕事と家庭の両立及び働きやすい職場環境の整備等を促進するため、第3期一般事業主行動計画を作成し、職員に周知した。

また、コロナ対応を行う職員に対する特殊業務手当（新型コロナウイルス感染症従事手当）の創設や国の補助金の趣旨に則り一時金を支給した。

さらに、令和２年４月から医師以外の管理職を対象に、モチベーションの向上を目的とした人事評価制度（管理職目標管理制度）を導入した。

4 法令遵守と公平性・透明性の確保

新規採用職員研修など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めるとともに、個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例等に基づき、適切に対応した。

第３ 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営基盤の強化

執行部会議等を定期的に開催し、病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで、増収及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析等を通じて、効率的な病院経営に取り組んだ。

また、収支改善により生じた利益を積立て、今後の投資計画を踏まえた投資財源の確保を図り、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入など、効果的な投資を行った。

2 収支改善

増収対策として、診療報酬改定を踏まえた施設基準に必要な運用方法の見直しや新たな手術手技の導入を行うとともに、診療材料等の選定や価格交渉の徹底など費用削減に取り組んだものの、コロナの影響による受診控えなどから患者数が減少し、当年度の医業収益は、福岡市立こども病院において目標値を８億円下回る８８億７千万円余、福岡市民病院において目標値を６億円下回る５５億２千万円余となった。一方で、コロナ対応に係る国や県の補助金により、必要な経費の補填等に努めた。

これらの結果、福岡市立こども病院における当期純利益は４億８千万円余となり、目標は下回ったものの、黒字を確保した。福岡市民病院における当期純利益は７億円余となり、医業収支比率は目標を下回ったが、総収支比率及び経常収支比率は目標を上回った。市立病院機構全体での当期純利益は１１億８千万円余となった。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	令和元年度実績	令和２年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	9,755,519	8,875,129 (9,702,523)	▲880,390 (▲827,394)
福岡市民病院	5,617,281	5,525,171 (6,130,769)	▲92,110 (▲605,598)
法人全体	15,372,800	14,400,301 (15,833,292)	▲972,500 (▲1,432,991)

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	令和元年度実績	令和２年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	10,442,990	10,310,722 (10,731,199)	▲132,268 (▲420,477)
福岡市民病院	6,442,448	6,972,252 (6,769,337)	529,804 (202,915)
法人全体	16,885,438	17,282,974 (17,500,536)	397,536 (▲217,562)

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

【経常収支比率】

(単位：%)

区 分	令和元年度実績	令和２年度実績 ()は２年度目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	108.2	104.3 (105.0)	▲3.9 (▲0.7)
福岡市民病院	95.8	109.5 (100.1)	13.7 (9.4)
法人全体	103.5	106.4 (103.2)	2.9 (3.2)

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 福岡市立こども病院における医療機能の充実

厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、川崎病（176例）及び先天性心疾患に係る手術症例（91例）について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が5年連続で全国一位となった。

また、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、10件（うち研究代表4件）の研究に参加したほか、治験業務については、アクティブプロトコル24件（うち新規5件）を実施し、新たに19名の患者へ治験を開始した。

さらに、国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語に加え、新たにフランス語研修を開催したほか、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを実施するとともに、外部講師による講演会の開催や「心停止者からの臓器提供に関する手順書」を新たに策定するなど、院内の体制確保に取り組んだ。

2 福岡市民病院における経営改善の推進

第4期中期目標期間に達成すべき経営改善計画を作成し、その中で、今年度から実施可能な取組として、ICU（集中治療室）・救急プロジェクトの立ち上げ、エリア別競合病院の調査などの収益確保策、人員配置適正化や診療材料費削減に向けた検討などの費用削減策に着手したが、コロナ対応のため、一部の取組については実施までには至らなかった。

コロナ対応については、福岡市における中核的な役割を果たしながら、当院の使命である高度専門医療、救急医療の提供を途切れさせないため、コロナ対応以外の一般病棟において診療科の区別なく患者を受け入れ、年平均94.1%、特に下半期は平均96.4%の病床利用率を維持するとともに、機器を導入して新たな手術手技を取り入れるなど、様々な制約下において可能な限りの医業収益確保に極力努めた。

また、修繕項目の絞り込みなど、中長期修繕計画の見直しを行い、ボイラー設備、高架水槽、厨房空調機器など必須のものについては着実に更新作業を完了させるとともに、高度専門医療の提供に必要な医療機器を購入するなど、必要な投資を行った。

【福岡市民病院 医業収支比較】

（単位：百万円）

区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
医業収益 a	5,496	5,686	6,065	5,617	5,525
営業費用 b	6,227	6,090	6,549	6,442	6,972
差引（a－b）	▲730	▲404	▲483	▲825	▲1,447
比率（a／b）	88.3%	93.4%	92.6%	87.2%	79.2%

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		2年度 目標値	2年度 実績値	達成率	2年度 目標値	2年度 実績値	達成率
患者 動向	1人1日当たり入院単価（円）	108,100	112,693	104.2	68,172	73,748	108.2
	1人1日当たり外来単価（円）	11,700	11,959	102.2	22,700	24,077	106.1
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（％））	215.6 (90.2)	187.8 (78.6)	87.1 (87.1)	191.8 (94.0)	160.0 (78.4)	83.4 (83.4)
	新規入院患者数（人）	7,450	6,195	83.2	4,900	4,026	82.2
	平均在院日数（日）	9.7	10.1	96.0	12.5	13.0	96.2
	1日当たり外来患者数（人）	380.0	353.3	93.0	230.0	197.3	85.8
医 業 活 動	手術件数（件）	2,900	2,603	89.8	3,860	3,625	93.9
	救急搬送件数（件）	1,400	980	70.0	3,000	2,411	80.4
	紹介率（％）	90.0	91.1	101.2	89.0	98.0	110.1
	逆紹介率（％）	66.5	63.1	94.9	155.0	156.2	100.8
	薬剤管理指導件数（件）	6,200	4,904	79.1	8,640	7,982	92.4
	栄養食事指導・相談件数（件）	1,200	1,332	111.0	1,000	882	88.2
患 者 満 足	退院時アンケートの平均評価点数 （こども病院）（100点満点）	88.8	89.2	100.5	—	—	—
	患者満足度調査における平均評価 点数（福岡市民病院）（100点満点）	—	—	—	90.0	90.3	100.3
経 営 収 支	給与費対医業収益比率（％）	59.7	64.5	92.6	59.3	70.5	84.1
	材料費対医業収益比率（％）	18.0	18.1	99.4	26.1	27.6	94.6
	薬品費対医業収益比率（％）	5.6	5.6	100.0	8.4	7.6	110.5
	診療材料費対医業収益比率（％）	12.0	12.2	98.4	17.7	19.7	89.8
	委託費対医業収益比率（％）	10.5	10.7	98.1	7.5	8.0	93.8
	ジェネリック医薬品導入率（％）※	83.7	85.8	102.5	88.5	89.1	100.7
	総収支比率（％）	105.0	104.6	99.6	100.1	110.0	109.9
	経常収支比率（％）	105.0	104.3	99.3	100.1	109.5	109.4
	医業収支比率（％）	90.3	86.1	95.3	90.5	79.2	87.5

※ジェネリック医薬品導入率については、数量ベースにて算出している。

項目別の状況

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実に取り組むとともに、医療環境の変化等を踏まえ、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、診療機能（特に集中治療系病床等）の充実や見直しを図る。	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 ① 周産期センターの胎児循環器科において、胎児診断に基づき適切な出生後治療への連携を可能とするため、各専門診療科と協働し胎児診断治療を強化する。 ② 入退院支援部門と地域医療連携部門の整備等を実施することによって、多職種協働による入退院支援拡大の施策を検討する。 ③ 3Dプリンタを利用した臓器や骨などの医療用実体モデルの製作を行い、手術シミュレーション、患者や家族への説明、学生・研修医などの教育に活用する。 ④ 倫理的な価値判断が困難な案件について、多職種で問題を共有し適時助言を行う倫理コンサルテーションチームの活動を推進するとともに、倫理に関する研修会を開催する。 ⑤ 病院機能評価3rdG:Ver2.0を受審し、現在の医療提供体制について改めて見直すことにより、安全・安心で、より質の高い医療を提供できる体制を整備する。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ア 福岡市立こども病院 これまで培ってきた高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、中核的な小児総合医療施設として求められる役割を果たすこと。
-----------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ● 4月にCOVID-19対策本部を設置し、「福岡県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関」として、コロナ病床の確保や環境の整備など、小児のコロナ対策に取り組んだ。 ① 胎児循環器科において、関係診療科と協働して胎児期から出生後の治療計画を立案し、実際のシミュレーションを実施する等、胎児診断に基づく適切な出生後治療の連携を強化した。 ② 令和2年3月に新たに設置した看護師、医療ソーシャルワーカー等の多職種で構成する「入退院支援推進チーム」による入院支援の対象診療科を拡大(元年度:3診療科、2年度:7診療科)し、対象診療科(眼科・耳鼻いんこう科・小児外科・泌尿器科・循環器科・皮膚科・脳神経外科)の新規入院患者(延べ2,274人、全手術入院予定患者の約57%)に対して、患者情報の聴取、治療の説明及び入院生活に関するオリエンテーション等を入院前に実施するなど、安心して入院医療が受けられるよう支援を行った。 ③ 心臓等の医療用実体モデルを14体(元年度:10体)製作して、患者家族への分かりやすい治療前説明や術前のシミュレーション、研修医の教育等に活用し、医療の質の向上を図った。 ④ 医療現場で直面する解決困難な倫理的問題について、医師や看護師等で構成する倫理コンサルテーションチームによる問題点の共有と分析、専門的視点での支援を行った。 また、こども権利擁護委員会を中心に「病院のこども憲章」の見直しを行い、改訂した「病院のこども憲章」に係る全職員向けのビデオ研修会を開催した。 ⑤ 令和3年2月に病院機能評価3rdG:Ver2.0を受審した(令和3年5月認定)。	2	4	4	○ 胎児循環器科における胎児診断に基づく適切な出生後治療の連携強化、多職種共同の「入退院支援推進チーム」による入院支援の拡大、診療機能の強化・充実に取り組んでいる。 ○ コロナの影響を受けて、多くの指標で目標値を下回ったものの、入院単価や外来単価は目標値を上回っており、また、コロナ対策において、福岡市立こども病院に求められる役割を果たすべく、コロナ病床の確保や環境の整備などに積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,400	1人1日当たり 入院単価（円）	107,411	108,100
1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700	1人1日当たり 外来単価（円）	11,645	11,700
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	184.4 (78.0)	207.8 (86.9)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））※	221.6 (92.7)	215.6 (90.2)
新規入院患者数（人）	6,038	6,200	新規入院患者数（人）	7,424	7,450
平均在院日数（日）	10.2	11.2	平均在院日数（日）	9.9	9.7
1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0	1日当たり 外来患者数（人）	384.8	380.0
手術件数（件）	2,447	2,650	手術件数（件）	3,018	2,900
救急搬送件数（件）	1,028	1,050	救急搬送件数（件）	1,516	1,400
			※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出。		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	令和元年度 実績値	令和２年度 実績値				
１人１日当たり 入院単価（円）	108,393	112,693				
１人１日当たり 外来単価（円）	11,492	11,959				
１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））※	215.5 (90.2)	187.8 (78.6)				
新規入院患者数（人）	7,428	6,195				
平均在院日数（日）	9.7	10.1				
１日当たり 外来患者数（人）	389.5	353.3				
手術件数（件）	2,929	2,603				
救急搬送件数（件）	1,380	980				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出。						
【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響による受診控えや新しい生活様式の定着に伴う小児の感染症ならびに感染症に由来する疾患が減少したことなどから、入院・外来患者数、手術件数及び救急搬送件数等の主な目標値は達成できなかったが、コロナ病床の確保や環境の整備、疑似症患者を含む入院患者の受入れなど、公的病院として求められる小児のコロナに対する医療提供を行ったことや、入退院支援推進チームによる入院支援の対象診療科を拡大したこと等を総合的に判断し、自己評価は「４」とする。						

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ① 医療法で定められた医療計画における4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図る。 ② 救急患者の受入を円滑に行うとともに、より重篤な救急患者の受入を行う高度救急医療の強化充実を図る。 ③ 新型インフルエンザ等対策措置法における「指定地方公共機関」として、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、別途定める事業継続計画（BCP）に基づき適切に対応する。	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ① 高齢化に伴い近年増加傾向にある食道がん等をはじめとした食道疾患について、多職種の連携による適切な治療や、市民向けの情報発信等に取り組むことを目的として、食道疾患センターを設置する。 ② 入退院支援室、患者サポート室を包括的に管理するPFM（Patient Flow Management）センターを中心に救急患者の受入を円滑に行うとともに、脳疾患、循環器疾患等の入院や手術を必要とするより重篤な救急患者の受入を積極的に行う。 ③ 新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、事業継続計画（BCP）に基づき適切に対応するとともに、保健所等とも緊密に連携しながら、市立病院として福岡市における対策の中核的役割を果たす。

中期目標（内容）	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療の更なる充実を図ること。 また、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、必要な対応を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 食道がんをはじめとした食道疾患について、消化器外科・消化器内科・放射線科が密に連携し、適切な治療と情報発信等に取り組むことを目的として、4月に「食道疾患センター」を設置した。コロナの流行に伴い、広報活動等は遅れたが、食道悪性腫瘍、食道裂孔ヘルニア等の治療件数が増加した。 (食道疾患センターの対象となる手術件数：元年度2件、2年度13件) ② 入院支援室、患者サポート室を包括的に管理するPFM (Patient Flow Management) センターを中心に、各診療科と密な院内連携体制を構築して、「断らない医療連携」に取り組み、コロナ対応病棟を除く病床利用率は年平均94.1%を維持するとともに、救急搬送入院率は49.2%（元年度：44.0%）となるなど、重症患者を多く受け入れた。また、電子カルテ上で、日単位のリアルタイムな空床状況が把握できるシステムを作成し、円滑なベットコントロールを実施した。 ③ コロナの流行に対しては、春の第一波、夏の第二波、冬の第三波のいずれの時期においても、行政や他の指定感染症医療機関等と緊密な連携をもちながら、福岡市における対策の中核的な役割を果たすとともに、福岡県から「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受けた。 指定感染症病床4床に加え、一般病棟4病棟のうちの1病棟（49床）及びハイケアユニット（4床）をコロナ専用病棟とし、患者と職員の安心と安全を十分確保しながら、これまで培ってきた高度専門・救急医療に係る経験を活かし、中等症以上の重症患者を中心に積極的な患者受入れに取り組んだ。 なお、コロナ対応以外の一般病棟、ICU（集中治療室）及びSCU（脳卒中集中治療室）においては、通常医療を途切れさせないため、診療科や病棟の垣根を超えた患者受入	2	4	4	○ 「食道疾患センター」の設置、密な院内連携体制構築による積極的な重症患者の受入れなど、診療機能の強化・充実に取り組んでいる。 ○ コロナの影響を受けて、多くの指標で目標値を下回ったものの、入院単価や外来単価は目標値を上回っており、また、「第2種感染症指定医療機関」として、コロナ対策における「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、一部病棟をコロナ専用病棟に転化し、一般患者の受入れを継続しながら、中等症以上の患者を中心に患者を積極的に受け入れており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	令和 2 年度 目標値		平成30年度 実績値	令和 2 年度 目標値
1 人 1 日 当 た り 入 院 単 価（円）	64, 749	67, 000	1 人 1 日 当 た り 入 院 単 価（円）	67, 382	68, 172
1 人 1 日 当 た り 外 来 単 価（円）	22, 739	18, 200	1 人 1 日 当 た り 外 来 単 価（円）	22, 569	22, 700
1 日 当 た り 入 院 患 者 数（人） （病床利用率（%））	183. 7 (90. 1)	183. 6 (90. 0)	1 日 当 た り 入 院 患 者 数（人） （病床利用率（%））※	191. 1 (93. 7)	191. 8 (94. 0)
新規入院患者数(人)	4, 510	4, 800	新規入院患者数(人)	4, 895	4, 900
平均在院日数（日）	12. 6	12. 5	平均在院日数（日）	12. 4	12. 5
1 日 当 た り 外 来 患 者 数（人）	234. 2	250. 0	1 日 当 た り 外 来 患 者 数（人）	232. 6	230. 0
手術件数（件）	3, 060	3, 100	手術件数（件）	3, 834	3, 860
救急搬送件数（件）	2, 620	2, 800	救急搬送件数（件）	3, 130	3, 000
			※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出。		

業務の実績 (実施状況や評価の半断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の半断理由・ 評価のコメントなど
れに努め、柔軟な人員配置やベットコントロールの工夫、医療機器の整備など、コロナ以外の診療体制の維持に取り組んだ。その結果、コロナ対応以外の病床利用率は高水準を維持するとともに、入院単価は診療報酬特例措置の加算を除いても、初の7万円台となった。 ● 腹腔鏡下手術が必要な中等症以上の胆のう炎、総胆管結石等の治療について、紹介患者を円滑に受け入れることを目的として、3月に「胆石外来」を設置した。 ● コロナ対応以外の患者受入れに際し、医療安全上のリスク回避や円滑なベットコントロールを行うとともに、コロナ終息後においても病棟運営の効率化を図ることを目的として、病棟間での許可病床数の調整や、処置室を病室化するなど、一般病棟の病床数を見直した（令和3年4月より実施済）。				
【実績値】				
指標	福岡市民病院			
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値		
1人1日当たり 入院単価（円）	64,081	73,748		
1人1日当たり 外来単価（円）	22,965	24,077		
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））※	183.9 (90.2)	160.0 (78.4)		
新規入院患者数 （人）	4,525	4,026		
平均在院日数（日）	12.7	13.0		
1日当たり 外来患者数（人）	219.7	197.3		
手術件数（件）	3,719	3,625		
救急搬送件数（件）	2,820	2,411		
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出。				

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 目標値に対しては、コロナ対応のための1か月程度の手術制限（4月～5月において、過去3年間の同期比で5割以上の件数減）、患者の受診控え※¹や救急搬送件数の減少※²（福岡市において前年比11.9%の減）、コロナ専用病症として57床を確保したため、204床のうち年平均11.4%（23床）を空床とせざるを得なかったことなど、特殊な状況下であったことから、診療単価以外は全て下回る結果となった。一方、その他の一般病棟は年平均94.1%の病床利用率を維持するとともに、高度専門医療の提供に積極的に取り組み、新たな手術手技の導入等によって、診療報酬におけるコロナ特例措置の加算分を除いた入院単価は70,498円となり、目標値を大きく上回るなど、コロナの影響を受けながらも、通常医療を途切れさせないよう取り組んだ。 また、コロナ対応では福岡市、福岡県における中核的な重点医療機関として、中等症以上の重症患者を中心に積極的な受入れを行ってきたことから、自己評価は「4」とする。 ※1 「コロナ拡大期における受診意識調査」（R3.2健保連）より、R2.4～5月頃の「持病あり群」で緊急事態宣言発令7都府県における通院抑制した人数は26.6%。 ※2 「福岡市令和2年消防統計（R3.1月）」より、前年比で救急要請数は10.3%、救急出動数は10.7%、救急搬送数は11.9%の減				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。 ② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 ③ 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、地域における医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ④ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおいて急性期病院が担うべき役割として、地域の在宅医療を担う訪問看護ステーションやかかりつけ医等との積極的な連携、支援を行い、在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化を図る。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院 ① 福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」を活用し、病病・病診連携の推進を図るとともに、在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携について引き続き検討を行う。 ② 「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として、地域におけるネットワーク構築や、院内における退院支援、研修会等を行うほか、福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、地域の小児在宅医療の推進に努める。 ③ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、積極的に母体搬送を受け入れることにより、地域における周産期救急搬送体制の一翼を継続的に担う。 ④ 厚生労働省が推進する小児期から成人期への移行期医療の体制整備を促進するため、移行期支援外来（たけのこ外来）を中心に、移行期患者教育プログラムをさらに充実させ実施する。 ⑤ 地域医療連携室ニュースレターを年4回発行し、当院の診療体制・診療内容の紹介、地域医療連携に関する情報、カンファレンス・研修会の案内などについて情報発信のツールとして活用する。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ● 「新型コロナワクチン連携型接種施設」として、職員及び地域の医療従事者へのワクチン接種を円滑に実施するため、院内にワーキングチームを設置し検討を重ね、実施体制等を整備した(3月15日より職員へのワクチン接種を開始)。 ① コロナ禍において、直接の訪問等が制限されたため、Webミーティング等を通じて、病病・病診連携並びに在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携を図った。 ② 「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として、訪問看護ステーションのスタッフや医療的ケア児に関わる多職種を対象としたWeb研修会を各1回開催するとともに、「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、コロナ禍においても医療的ケア児延べ16人(元年度:延べ18人)のレスパイト入院を受け入れるなど、地域の小児在宅医療の推進に努めた。 ③ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、切迫早産や前期破水など新生児病床を必要とする母体搬送症例を積極的に受け入れた。 (受入件数:元年度143件、2年度125件) ④ 移行期支援外来(たけのこ外来)において、移行期患者教育プログラムの内容を見直すとともに、心臓疾患を有する患者(循環器科)に対し、当該プログラムを活用した教育を着実に実施した。 ⑤ 登録医宛にニュースレターを送付(5回発行)し、当院の取組や研修会等の案内を行うとともに、当院が提供する治療内容をまとめた40周年記念誌及び当院への予約・紹介方法等を記載したリーフレットを送付し、前方連携の強化を図った。	2	3	4	○ Webを積極的に活用したミーティングや研修会などを開催し、多職種連携を図るとともに、母体搬送症例を積極的に受け入れている。 ○ コロナの影響を受けて、一部指標で目標値を下回ったが、コロナ禍の下でも医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れており、また、認定された「新型コロナワクチン連携型接種施設」として、地域の医療従事者も含めてワクチン接種に取り組むなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				【目標値】			
指標		福岡市立こども病院		指標		福岡市立こども病院	
		平成27年度 実績値	令和2年度 目標値			平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
紹介率 (%)		78.4	80.0	紹介率 (%)		87.8	90.0
逆紹介率 (%)		50.2	46.0	逆紹介率 (%)		65.5	66.5
オープンカン ファレンス	回数 (回)	45	45	オープンカン ファレンス	回数 (回)	56	45
	参加者数 (人)	1,713	1,300		参加者数 (人)	1,915	1,700
開放型病床への登録 医数 (人)		193	300	開放型病床への登録 医数 (人)		305	300
退院支援計画件数※ (件)		150	200	退院支援計画件数※ (件)		225	230
※ 退院支援計画書作成件数				※ 退院支援計画書作成件数			

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)				自己評価		市長の評価	
				ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】							
指標		福岡市立こども病院					
		令和元年度 実績値	令和２年度 実績値				
紹介率 (%)		94.8	91.1				
逆紹介率 (%)		68.7	63.1				
オープンカン ファレンス	回数 (回)	31	19				
	参加者数 (人)	1,362	1,217				
開放型病床への登録 医数 (人)		308	311				
退院支援計画件数※ (件)		187	189				
※ 退院支援計画書作成件数							
【自己評価の判断理由】							
○ コロナ禍においても、Webによるミーティングや研修会、カンファレンスを開催する等の工夫を行い、地域の医療機関等との連携を図ったが、紹介率と開放型病床への登録医数を除き、目標を下回った。 また、入院患者の減少に伴い、退院支援計画件数も目標値に達しなかった。 一方で、新型コロナワクチン接種の実施体制を整備するとともに、コロナ禍においてもレスパイト入院や母体搬送を積極的に受け入れる等、地域医療に貢献したことから、自己評価は「3」とする。							

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。 ② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 ③ 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、地域における医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ④ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおいて急性期病院が担うべき役割として、地域の在宅医療を担う訪問看護ステーションやかかりつけ医等との積極的な連携、支援を行い、在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化を図る。	イ 福岡市民病院 ① 地域医療支援病院として、登録医の大型医療機器共同利用及び紹介による入院患者の共同診療、医療従事者等に対しての研修会（福岡東部オープンカンファレンス等）実施など、かかりつけ医等の支援について更なる充実を図る。 ② 「顔の見える連携」「断らない医療連携」を基本として、かかりつけ医等からの紹介患者に対して、急性期病院としての役割を明確にした連携体制の更なる充実を図る。 ③ 地域包括ケアシステムにおいては、在宅医療における基幹病院として、医師会をはじめ関係団体と連携し、緊急時の受入強化及び地域の医療従事者への積極的な支援を行う。また入退院支援室を中心に、多職種連携により入院前からの患者サポートの強化・充実を図るとともに、退院前カンファレンスによる在宅復帰支援の充実など、地域の介護施設や医療機関等との更なる連携強化を図る。 ④ 特定行為に係る看護師の指定研修機関の指定を受け、地域の医療機関等から受講生を積極的に受け入れ、高度な臨床実践能力を発揮できる看護師の育成に取り組むことで、地域の医療水準向上に貢献する。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 市立病院及び地域医療支援病院としての役割を果たすため、紹介患者に対する医療の提供、医療機器の共同利用の推進、救急医療の提供に取り組んだ。 医療従事者等に対しての研修会については、コロナ禍のため、集合形式での開催は困難となったことから、セキュリティが確保されたオンラインイベントシステムを導入してWeb開催を行い、遠方からの参加がしやすくなったなど、概ね好評を得た。 ② コロナ禍においても可能な範囲での訪問活動を継続して行う(元年度140件、2年度94件)とともに、PFM(Patient Flow Management)センターを中心とした院内の連携体制を強化するため、2週間先までの入退院・転入出予定が分かる独自の空床管理システムを構築し、病床管理者だけでなく、各師長が随時、全病棟の空床予定等を把握できるようになり、効率的なベットコントロールを行い、紹介患者受入れのいっそうの充実を図った。 ③ 地域包括ケアシステムにおいては、入院からの外来・病棟・退院支援部門との多職種連携を図り、早期介入による在宅療養支援の充実に取り組むとともに、退院支援部門に実務を担う看護師を1名増員して2名体制とし、在宅医療・介護スタッフとの情報共有や在宅スタッフとの退院前カンファレンスを積極的に行うことで、在宅療養支援における質の向上を図った。(退院前カンファレンス件数：元年度17件、2年度43件) また、医療ニーズが高い患者が在宅へ移行する際、安心して在宅での療養を継続できるよう、認定看護師を中心とした退院後訪問に取り組むため、人工肛門造設患者に対する退院後訪問を試行的に実施した。 ④ 令和2年2月に特定行為に係る看護師の指定研修機関の指定を受け、地域の医療機関等に対して受講生募集の周知を行ったが、周知	2	3	4	○ 紹介患者に対する医療の提供、医療機器の共同利用、Webを積極的に活用した研修など、地域の医療機関との連携に取り組んでいる。 ○ コロナの影響を受けて、一部指標で目標値を下回ったが、地域包括ケアシステムにおいて、退院前カンファレンスの充実や新たに退院後訪問を試行するとともに、地域の医療機関に対してコロナの感染対策の情報提供を行い、患者の安全・円滑な受入体制を整備するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				【目標値】			
指標		福岡市民病院		指標		福岡市民病院	
		平成27年度 実績値	令和2年度 目標値			平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
紹介率 (%)		82.1	85.0	紹介率 (%)		88.8	89.0
逆紹介率 (%)		147.0	140.0	逆紹介率 (%)		153.2	155.0
オープンカン ファレンス	回数 (回)	83	70	オープンカン ファレンス	回数 (回)	98	100
	参加者数 (人)	1,477	1,400		参加者数 (人)	1,545	1,400
開放型病床への登 録医数 (人)		174	200	開放型病床への登 録医数 (人)		310	320
退院調整件数※(件)		904	950	退院調整件数(件)		1,200	990
※ 退院支援加算1・地域連携診療計画加算・介護 支援連携指導料の合計件数							

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																														
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
期間が短かったため、今年度は院内の受講生3名で開講し、全員修了した。 なお、令和3年度の受講生募集に際しては、地域の医療機関より1名の受講が決定した。 ◎ コロナ患者を受け入れるにあたっての感染予防対策や治療方針、必要な準備等に係る当院の手順やマニュアルに基づく具体的な取組内容、運用方法等について、地域の医療機関へ情報提供を行うとともに、5医療機関の視察を受け入れた。 【実績値】 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td colspan="2">紹介率 (%)</td><td>88.7</td><td>98.0</td></tr><tr><td colspan="2">逆紹介率 (%)</td><td>152.3</td><td>156.2</td></tr><tr><td rowspan="2">オープンカンファレンス</td><td>回数 (回)</td><td>108</td><td>18</td></tr><tr><td>参加者数 (人)</td><td>880</td><td>185</td></tr><tr><td colspan="2">開放型病床への登録医数 (人)</td><td>311</td><td>318</td></tr><tr><td colspan="2">退院調整件数(件)</td><td>1,109</td><td>1,152</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ オープンカンファレンスの回数及び参加者数はコロナの影響を受け目標を大きく下回ったものの、その他の目標は概ね目標値及び昨年度実績を上回った。 特に退院調整件数については、退院支援部門を強化し、積極的に取り組んだ結果、コロナの影響で患者数が減少したにも関わらず、大きく向上している。 これらの結果を踏まえ、自己評価は「3」とする。	指標		福岡市民病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	紹介率 (%)		88.7	98.0	逆紹介率 (%)		152.3	156.2	オープンカンファレンス	回数 (回)	108	18	参加者数 (人)	880	185	開放型病床への登録医数 (人)		311	318	退院調整件数(件)		1,109	1,152				
指標			福岡市民病院																														
		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値																														
紹介率 (%)		88.7	98.0																														
逆紹介率 (%)		152.3	156.2																														
オープンカンファレンス	回数 (回)	108	18																														
	参加者数 (人)	880	185																														
開放型病床への登録医数 (人)		311	318																														
退院調整件数(件)		1,109	1,152																														

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ① 災害発生時やその他の緊急時においては、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内の事業継続計画（BCP）等に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、患者の受入や医療従事者の派遣など迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たす。 ② 防災対策の点検や必要物品等の備蓄確認等を徹底し、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ③ 他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努める。	(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ① 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内の事業継続計画（BCP）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ② 非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底し、災害発生時の万全な対応に備える。 ③ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努めるとともに、こども病院においては、全国の小児総合医療施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、衛星電話の活用等により連携を図る。 ④ 大規模災害等が発生した場合に、職員の安否確認並びに事業継続に必要な人員の把握を可能とするため、緊急時参集システムを導入する。 ⑤ こども病院においては、平成28年度に策定した「福岡市立こども病院事業継続計画（BCP）概要版」の見直し及び詳細版を策定する。

中期目標(内容)	災害発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ①② 災害発生に備え、消防計画に基づく防災訓練を2回(元年度:2回)実施し、職員の防災意識及び対応力を高めるとともに、非常用発電設備及び備蓄物品の点検等を徹底した。 ③ 全国の小児総合医療施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、広域災害発生時に協定施設と確実に連携が図るとともに、9月には海上保安庁と合同で、天候不順や災害時を想定したヘリコプターの離発着及び患者受入・搬送訓練を実施し、職員の危機管理能力の向上及び関係機関との連携強化を図った。 ④ 大規模災害等の発生時の職員の安否確認並びに事業継続に必要な人員の把握を目的として、緊急時参集システム(ANP I C)を導入し、5月に安否確認訓練を行ったほか、9月の台風10号来襲時における職員の安否確認やコロナに関する情報の共有ツールとして活用した。 ⑤ 「福岡市立こども病院事業継続計画(BCP)概要版」を見直し、職員の安否確認、参集ルール、備蓄食品の内容、患者用献立及び災害発生時の初動対応をまとめた詳細版を策定した。 ⑥ コロナの感染拡大に際し、BCPを踏まえながら、福岡市及び関係機関との連携の下、COVID-19対策本部を設置し、感染対策室や感染制御チーム(ICT)を中心に、コロナ患者及び疑似症患者の受入体制を整え、保健所からの指示のもと対応を行った。 ・コロナ病床11床(一般病床10床、HCU(高度治療室)1床) ・疑似症含む患者受入状況(単位:人)	2	4	4	○ 災害発生に備えた訓練の実施や設備・物品点検の徹底、「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設としての関係機関との連携強化、大規模災害等発生に備えた緊急時参集システムの導入、福岡市立こども病院事業継続計画詳細版の策定など、災害時の体制強化に取り組んでいる。 ○ コロナ対応においては、院内感染防止に的確に取り組みながら疑似症患者を含むコロナ患者の受入れに対応するなど、迅速かつ的確に対応がなされたものとして、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
外来対応数		入院患者数		
PCR検査数				
1,130	1,075	185		

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
◎ 事業の継続に支障が出ないように、国や県と在庫の情報共有を行い、マスク等の防護具や消毒液等の確保に努めた。 ◎ コロナの主な感染防止対策 ・COVID-19対策本部の設置 ・職員研修の実施及びメールによる情報提供 ・玄関及び職員通用口へのサーモカメラ設置 ・入館時トリアージの実施 ・外来受付（各ブロック、会計窓口等）、レストラン及び職員休憩室等にアクリル製の飛沫感染防止パネル等を設置 ・院内トイレの全ての洋便器にフタを追加設置 ・感染症外来診察室及び生理検査室にHEPAフィルター搭載のクリーンパーテーションや換気扇を設置 ・コロナ患者受入病床にモニタリングカメラを設置 ・電話診療による処方せんの発行 ・入院時PCR検査の実施（対象患者のみ） ・集中系病棟におけるタブレット面会の実施 ・時差出勤の導入（事務職のみ） ・テレワークの試行（事務職のみ） 以上の徹底した感染防止対策を行った結果、院内でクラスターを発生させることなく、通常医療や救急医療を継続させることができた。 【自己評価の判断理由】 ○ BCP（事業継続計画）を踏まえながら、COVID-19対策本部や感染対策室を中心に、疑似症を含む患者受入体制を整備し、患者を受け入れるなど、市立病院として迅速・的確な対応を行った。 また、マスクや消毒液等の資材の確保に努めるとともに、様々な感染防止対策を講じるなど、事業継続するために必要な取組を確実に行った。 災害発生に備えた訓練の実施や設備及び備蓄物品の点検等の徹底に加え、迅速・的確なコロナ対応を行ったことから、年度計画を上回って実施したと判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ① 災害発生時やその他の緊急時においては、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内の事業継続計画（BCP）等に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、患者の受入や医療従事者の派遣など迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たす。 ② 防災対策の点検や必要物品等の備蓄確認等を徹底し、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ③ 他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの的確に医療救護活動の支援に努める。	(再掲) (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ① 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内の事業継続計画（BCP）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ② 非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底し、災害発生時の万全な対応に備える。 ③ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努めるとともに、こども病院においては、全国の小児総合医療施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、衛星電話の活用等により連携を図る。 ④ 大規模災害等が発生した場合に、職員の安否確認並びに事業継続に必要な人員の把握を可能とするため、緊急時参集システムを導入する。 ⑤ こども病院においては、平成28年度に策定した「福岡市立こども病院事業継続計画（BCP）概要版」の見直し及び詳細版を策定する。

中期目標(内容)	災害発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの的確に医療救護活動の支援に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ①② 市立病院としての役割を果たすため、災害発生時の万全な対応に備え、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を実施した。 また、6月に全職員を対象として、コロナ対応と災害時医療をリンクさせた研修を行うなど、職員の意識向上を図った。 ④ 大規模災害等の発生時の職員の安否確認並びに事業継続に必要な人員の把握を目的として、緊急時参集システム(ANPIC)を導入し、5月に安否確認訓練を実施した。 ◎ 福岡市民病院においては、コロナ対応における福岡市の中核的な役割を果たすとともに、コロナ対応は福岡県災害医療プログラムにおけるカテゴリーⅣに該当することから、福岡県とも密接に連携して対応を行った。 令和2年1月に初の疑い症例を診療後、3月には陽性患者の入院を受け入れ、一時はECMO(体外式膜型人工肺)の2台並走、人工呼吸器6台使用、透析患者など、中等症以上の重症患者を中心に積極的な受入れを行い、福岡県の依頼による場合には軽症患者も受け入れるなど、幅広く対応した。 特に第一波の際には、未知の感染症に対して福岡県内の医療体制が整わない状況下において、保健所からの相談対応、疑似症を含むコロナ患者の外来診療・入院のいずれにおいても積極的に対応し、市内のみならず、福岡県内の陽性患者の多くを受け入れた。 こうした状況に対応するため、指揮命令の一元化と迅速化のため、コロナ対策本部を常設として医師、看護師、事務員を常駐化したほか、感染症病棟の一室で透析が可能となる工事の実施、4病棟ある一般病棟の1病棟をコロナ専用病棟に転化、コロナ専用病棟のマンパワー確保のためフェーズに応じた看護師の傾斜配置と患者の重症度等に応じた柔軟な応援体制の確保、救急診療棟外にプレハブの	2	5	5	○ 災害発生に備えた訓練の実施や設備・物品の点検、大規模災害等発生に備えた緊急時参集システムの導入など、災害対応の体制強化に取り組んでいる。 ○ コロナ対応において、感染流行初期段階から積極的に患者を受け入れ、全病床の約2割をコロナ専用病床に転化するとともに、全員参加のコロナ禍における災害発生を想定した研修を行うなどコロナ禍の災害にも備えた。また、JMAT活動に協力したコロナ療養ホテルへ医師等の派遣、県から認定されたワクチン接種基本型接種施設として新型コロナワクチン接種の対応、地域の医療機関に対する院内感染対策の情報提供など、市立病院としての役割を果たしたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断し、「評価5」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																		
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																	
診察室等を設置、徘徊の危険性のある認知症患者等への対応のために見守り用カメラを設置、フェーズに応じたゾーニングによる動線の確保、来院者の体調確認のため正面玄関へ看護師や事務員を常駐化するなど、様々な対策を矢継ぎ早に行うとともに、徹底した感染防止対策を行った結果、院内でクラスターを発生させることなく、通常医療や救急医療を継続させることができた。 また、J M A T（日本医師会災害医療チーム）活動に協力し、コロナ感染者が療養するホテルでの対応要員として医師・看護師を延7名（医師6名、看護師1名）派遣した。 その他、供給不足の恐れがある資機材の安定的な確保のため、院内以外に外部倉庫を保管場所として確保するとともに、看護師業務の負担軽減を目的としたコロナ専用病棟清掃業務の委託化、看護師のマンパワー不足解消のための派遣職員（看護師）の確保、補助金を活用した医療機器の緊急購入など、全職員が一丸となって、コロナ対応を行った。 なお、令和3年3月には、医療従事者へのワクチン接種開始に伴い、新型コロナウイルスワクチン接種の基本型接種施設として県より認定を受けた。 ・疑似症含む患者受入状況（単位：人） <table><tr><td colspan="2">外来対応数</td><td>入院患者数</td></tr><tr><td></td><td>PCR検査数</td><td></td></tr><tr><td>5,212</td><td>5,150</td><td>418</td></tr></table> ・陽性入院患者（314人）の治療状況 （人数には重複あり）（単位：人） <table><tr><td>酸素吸入を要した患者数</td><td>透析患者数</td><td>人工呼吸器を使用した患者数</td><td>E C M O※を使用した患者数</td></tr><tr><td>160</td><td>11</td><td>22</td><td>3</td></tr></table> ※E C M O（体外式膜型人工肺） 【自己評価の判断理由】 ○ 発生当初より、福岡市及び福岡県のコロナ対策の中核的な役割を果たすため、一般病棟のコロナ専用病棟化やマンパワーの確保など、いち早く院内の体制を整えるとともに、行政や他の感染症医療機関と連携を密にしながら、中等症以上の重症患者を中心に積極的な受入れを行い、全職員が一丸となって、常に最前線での取組を行ったことから、自己評価は「5」とする。	外来対応数		入院患者数		PCR検査数		5,212	5,150	418	酸素吸入を要した患者数	透析患者数	人工呼吸器を使用した患者数	E C M O※を使用した患者数	160	11	22	3				
外来対応数		入院患者数																			
	PCR検査数																				
5,212	5,150	418																			
酸素吸入を要した患者数	透析患者数	人工呼吸器を使用した患者数	E C M O※を使用した患者数																		
160	11	22	3																		

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 ④ ボランティアとの連携などにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努める。	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院 ① 退院時アンケートやホームページによる患者・家族からの意見等を踏まえ、院内の接遇・療養環境委員会を中心に、関係部署とも協議しながら、院内環境の整備を推進し、より快適な療養環境を提供するよう努める。 ② 患者・家族の療養環境改善を図るため、福岡市が推進する「一人一花運動」の趣旨に沿って、花壇等の管理を適切に行う。 ③ 患者・家族のニーズに応じた活動を行ってもらようボランティアの活動を支援する。また、感染や安全面等に関する研修を開催するなど、ボランティアとの共働や資質の向上に向けた取組を行い、更なる活動支援に努める。 ④ 入院時オリエンテーションにおいて、患者・家族の理解度の向上と説明内容の標準化を図るため、テキスト読み上げ・自動翻訳などの機能を有する『デジタルブック』を導入し、随時更新作業を行う。 ⑤ 患者家族の利便性の向上を図るため、ICT（情報通信技術）の活用により、外来予約システムの改善を検討する。

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、患者のニーズを的確に捉えながら院内環境の整備を進めるほか、ボランティアとの連携を図ることなどにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 病棟へ無料Wi-Fiを設置するなど、対応可能な案件について迅速に対処・実行し、院内環境の整備並びに患者サービスの向上に努めるとともに、対応状況等を院内へ掲示した。 ② 福岡市が推進する「一人一花運動」の趣旨に沿って、1年を通じて花が咲くよう季節毎に花の植え替えを行い、花壇の充実を図った。 ③ コロナの影響により、院内でのボランティア活動はできなかったが、九州産業大学の学生による製作ボランティアや、プロ野球チーム等からの応援メッセージ、プレゼントの受入れを積極的に行うなど、制限のある中で可能な限り、患者及び患者家族へのサービスの向上に努めた。 ④ 元年度に作成した入院時オリエンテーションに用いる『デジタルブック』の導入範囲を拡大（元年度1病棟、2年度4病棟）するとともに、看護部を中心とした動画作成プロジェクトチームにおいて、各病棟の診療内容に沿った『プレパレーション動画※』を作成し、患者・家族の理解度の向上と説明内容の標準化を図った。 （※プレパレーション:治療や検査を受けるこどもに対し、認知発達に応じた方法で病気、入院、手術検査その他の処置について説明を行い、こどもや親の意欲を引き出すような環境および機会を与えること。） ⑤ 令和2年6月よりLINE Fukuokaと共働で、福岡市立こども病院のLINE公式アカウント上から再診予約・予約変更を受け付ける実証実験を開始し、患者家族の利便性の向上を図った。 （令和3年3月末時点のLINE登録者数 9,816人）	2	4	4	○ 病棟への無料Wi-Fiの導入、デジタルブックやプレパレーション動画の導入による患者・家族への説明の標準化などに取り組んでいる。 ○ 指標は目標値を上回っており、また、実証実験中のLINEを利用した再診予約・予約変更の受付によって、患者家族等の利便性向上、電話受付件数の減少による業務の効率化に寄与するとともに、他病院のモデルになるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.8	88.8
※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等			※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価									
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
【実績値】 <table><tr><td rowspan="2">指標</td><td colspan="2">福岡市立こども病院</td></tr><tr><td>令和元年度 実績値</td><td>令和２年度 実績値</td></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>89.0</td><td>89.2</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等 【自己評価の判断理由】 ○ 退院時アンケート等の意見を踏まえ、院内環境を整備したほか、プレパレーション動画による患者・家族の理解度の向上と説明内容の標準化や、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した再診予約・予約変更システム導入（実証実験中）による患者家族の利便性向上など、患者サービスの向上に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「４」とする。			指標	福岡市立こども病院		令和元年度 実績値	令和２年度 実績値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	89.0	89.2				
				指標	福岡市立こども病院									
			令和元年度 実績値		令和２年度 実績値									
			退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	89.0	89.2									

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 第2 患者サービス （1）患者サービスの向上
----------	--

中期計画	年度計画																
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 ④ ボランティアとの連携などにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努める。	イ 福岡市民病院 ① 職員の接遇及び療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査等を引き続き行い、患者のニーズを的確に把握し、改善を図る。 ② 患者またはその家族等からの医療・福祉に関する相談などについて、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応する。 ③ 平成29年度に策定した中長期修繕計画に基づき、外壁及びトイレ等の衛生設備の段階的な改修を行うなど、療養環境の整備に努める。 ④ 大学サークル・市民団体等と交渉し、定期的に院内コンサート等を実施するとともに、患者の手助けなどを行う院内ボランティア（現在2人）を幅広く募集するなど、登録者の拡大を図る。																
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.1</td><td>88.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	令和2年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	88.0	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成30年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>89.6</td><td>90.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指標	福岡市民病院		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	90.0
指標		福岡市民病院															
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値															
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	88.0															
指標	福岡市民病院																
	平成30年度 実績値	令和2年度 目標値															
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	90.0															

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、患者のニーズを的確に捉えながら院内環境の整備を進めるほか、ボランティアとの連携を図ることなどにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
イ 福岡市民病院 ① 患者満足度調査を毎月実施し、患者のニーズを把握するとともに、職員の接遇に関する指摘等に対しては、当該職員にフィードバックして指導を行うなど、改善を図った。また、患者サポート相談窓口での対応分をCS（Customer Satisfaction）委員会に報告し、改善に向けて情報を共有した。 ② 患者またはその家族等からの医療・福祉に関する相談などについて、患者サポート相談窓口を中心に、3,203件の相談を受け付けるなど適切に対応した。 ③ 病室・デイルームの壁紙貼り替えや、外来待合室の椅子を更新したほか、より清潔で機能性も考慮したトイレ・浴室等の改修について検討を進めた（令和3年度工事予定）。 ④ 感染予防対策を徹底したうえで、院内ボランティア（登録者2人）による外来での患者のお世話、入院患者の話し相手、認知症患者の見守り等、患者とのふれあいを大切に活動により、患者視点のきめ細かな患者サービスの提供を行った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>89.6</td><td>90.3</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等 【自己評価の判断理由】 ○ 院内ボランティアの登録者数を拡大するという年度計画は達成できなかったものの、CS委員会や患者サポート相談窓口を中心とした適切な取組により、患者満足度は目標値を上回ったことから、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	90.3	2	3	3	○ 患者満足度調査や患者サポート相談窓口により患者ニーズを把握し、職員の接遇などを改善したほか、修繕計画に基づいた整備を行うなど、患者サービスの向上に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市民病院										
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値										
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	90.3										

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) 情報発信
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (2) 情報発信 ホームページや広報誌の発行等を通じて、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	(2) 情報発信 ① 診療内容、医療サービスや、「病院指標（独自指標を含む）」に示される治療実績などについて、診療情報誌、季刊誌、各科診療案内、ホームページ等を活用してわかりやすい情報発信に取り組むとともに、患者が安心して受診できるよう、市民に開かれた病院づくりに努める。 ② 院内における掲示や広報物等について、視認性の向上や集約化等による効果的な情報発信に努める。 ③ こども病院においては、外来に設置したデジタルサイネージについて、部門の紹介などを効果的に紹介する等、引き続きコンテンツの工夫等を行い、効果的な情報発信に努める。 さらに、地域の子育て世代や、元気な高齢者を対象に、多世代の交流や医療を通じて子育て・孫育てを実現することを目的に、CGG（Child Grandchild Good-Care）プログラムを年に2回、引き続き実施する。 ④ 令和2年度にこども病院開院40周年を迎えるにあたり、地域の医療機関や患者家族向けに40周年記念誌を発行する。また、10月に40周年記念事業としてこども病院フェスタと講演会等を開催する。

中期目標(内容)	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民に開かれた病院づくりに努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 市民や医療関係者等に対して最新の病院情報を発信するとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にも分かりやすい解説を行った。 福岡市立こども病院においては、患者用クリニカルパスの更なる充実を図り、当該クリニカルパスの公開による治療内容の可視化を実施した。 (公開パス：元年度12疾患、2年度14疾患) 福岡市民病院においては、「病院指標」に加え、日本病院会「Q I (Quality Indicator) プロジェクト」及び当院独自に設定した臨床指標 (28項目) の情報を更新するとともに、患者用クリニカルパスの公開を行い (33件)、患者が安心して受診できる情報発信に取り組んだ。 さらに、地域医療連携室を中心に各区公民館や社会福祉協議会と連携し、医師や看護師、メディカルスタッフが外向いて健康増進等の啓発を目的とした講演等を行う「出前講座」の周知に取り組み、令和3年度に向けて過去最高件数の申し込みを受けるなど、準備を進めた。 (2年度実施数2件、3年度予定数8件) ②③ 外来に設置したデジタルサイネージにて、各センター及び診療科の紹介やコロナの感染拡大防止に関する情報提供を行った。 また、福岡市立こども病院においては、地域住民を対象に、育児への関心を高めるための取組として、感染症対策を講じたうえで、地元の公民館と共同で、こども病院生涯学習講座C G G (Child Grandchild Good-Care) プログラムを11月に開催した。(テーマ「こどもの新型コロナウイルス感染症」、参加者18人。7月はコロナの感染拡大防止のため中止。元年度：2回開催、参加者延べ90人) ④ 福岡市立こども病院開院40周年にあたり、地域の医療機関や患者家族向けに当院が提供する治療内容をまとめた40周年記念誌を発行した。 また、コロナの感染拡大防止のため、こども病院フェスタ及び記念講演会は中止し、講演動画 (3演題) を病院ホームページにて配信した。	1	3	3	○ 両病院において、ホームページでの「病院指標」や患者用クリニカルパスなどの情報提供、福岡市立こども病院における地域での「出前講座」開催、40周年記念誌の発行など、積極的な情報発信に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ ホームページや広報誌等を活用した情報発信を継続するとともに、コロナ禍においても、感染対策を講じたうえで、地域住民と直接触れ合う講座を開催するなど年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ① 魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院 ① 看護師については、意欲ある人材を確保するため、看護学生等への看護体験や病院見学を通じて積極的に病院のPRを行うとともに、専任教育担当職員による看護職員等への研修を重点的に実施するなど、職員の資質向上に努める。 ② 年休の取得率の向上や時間外勤務の縮減など、職員のワーク・ライフ・バランスの向上に取り組み、優れた人材が確保できるよう魅力的な職場づくりに努める。 ③ 事務のスキルアップ等に関する研修を新たに開催し、年次的・計画的に職員の能力の向上を図る。 ④ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・人権・接遇などの研修を行うほか、各種院内研修について、外部講師を活用するなど内容の充実を図るとともに、受講促進に努め、職員の資質の向上を図る。 ⑤ 専門性や能力の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大に努める。 ⑥ 意欲ある研修医等の確保を目的として、ソーシャルネットワークサービスを活用し、カンファレンスや研修会、教育プログラム等の情報発信に努める。 ⑦ 熱帯感染症等の診断と治療を実践的に学ぶため、タイ王国の大学へ医師等を派遣する熱帯医学短期研修を引き続き実施する。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 意欲ある人材を確保するため、看護学生等を対象とした「インターンシップ・病院説明会」は、コロナ対策のため中止となっていたが、令和3年3月にWebで2回開催し、60人の参加があった。(元年度:4回開催、延べ71人) また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員、新任期看護職員等を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めた。 (2年度:14コース開催、参加者延べ2,661人、元年度:12コース開催、参加者延べ1,818人) さらに、他施設に従事する新人看護職員を対象にした小児看護研修をWebで2回開催し、延べ150人(元年度:2回開催、延べ68人)の参加を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。 ② 働き方改革への取組として、年休の年間5日間取得の徹底や時間外勤務を縮減するなど職員の負担軽減を図った。(一人当たりの月平均時間外勤務:元年度9.5h、2年度8.7h) ③④ 4月に新規採用職員を対象とした情報セキュリティ、人権・接遇研修を実施するとともに、各種院内研修について、Webによる研修体制を整備し、受講促進に努め、職員の資質向上を図った。 また、3月に委託業務職員に対しても、病院理念・基本方針等に関する研修をWebで実施し、85人の参加があった。 ⑤ 看護師について、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大に努めた。 【新規資格取得者】 認定看護師(感染管理) 1人 ※当該支援制度による資格取得者(令和3年3月末現在) 認定看護師(5分野) 6人 認定看護管理者ファーストレベル 3人 セカンドレベル 4人 サードレベル 3人	2	3	3	○ Webを活用した説明会による意欲ある人材の確保や、計画的な研修の実施、Webによる研修体制の整備、認定看護師等資格取得者の拡大など人材育成に積極的に取り組むとともに、働き方改革への取組による職員の負担軽減に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
⑥ 意欲ある研修医等の確保を目的として、SNSを活用した情報発信に努め、3月に初期研修医や医学部学生を対象とした講習会「F u k u o k a C H O P P S (Children's Hospital Practical Pediatric Seminar) 2021」をW e bで開催し、38人の参加があった。(元年度中止、30年度16人) ⑦ コロナの影響により、タイ王国のチュラロンコン大学が主催する熱帯医学短期研修への派遣は中止となった。 【自己評価の判断理由】 ○ W e b説明会等による人材確保に向けた取組、新人看護職員等への計画的な研修の実施、認定看護師等資格取得支援制度を活用した有資格者の拡大など、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ① 魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	イ 福岡市民病院 ① 医師、看護師を始め職種毎の定数管理を確実にし、職員の適正数の確保に努める。 ② 特定行為看護師の育成によるタスクシフティングを進める等、「医師の働き方改革」への対応をはじめ、ワーク・ライフ・バランスの推進に継続的に取り組み、年休の取得率向上や時間外勤務の縮減に努め、職員が働きやすい職場環境づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ③ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権、接遇研修のほか、全職員を対象とした医療安全管理体制確保、院内感染対策、保険診療に関する研修等を実施するなど、院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ④ 看護部においては、認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。 また、看護部以外の部門においても、専門職としての知識・技術の向上を図るため、資格取得支援制度の充実に努める。 ⑤ 特定行為に係る看護師の研修機関の指定を受け、職員だけではなく地域の医療機関等からも受講生を受入れ、高度な臨床実践能力を発揮できる看護師の育成に幅広く取り組む。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 看護師について7対1看護基準を維持するとともに、職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の配置を適宜行うなど職種毎の定数管理を確実に行った。 また、意欲ある人材を確保するため、感染予防対策を十分に行ったうえで、看護学校実習生を150名（延べ1,161名）受け入れた。 コロナの影響により、臨床研修医採用に向けた集合形式での病院見学会・説明会等に替えてオンライン説明会を開催し、29名の参加を得た（元年度は3月に9名で開催予定だったが、コロナにより中止）。 また、臨床研修医採用試験の際に、コロナの影響により来院が不可能な医学生に向けては、オンライン面接を実施した。（受験者数23名中、2名に実施） ② 医師事務作業補助者の1名増員及び特定行為看護師の育成（3名）等により「医師の働き方改革」を進めるとともに、院内のワークライフバランス推進委員会において、引き続き、年休の取得率向上に向けた周知活動に取り組むなど、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した。（看護職員離職率：元年度4.2%、2年度5.3%） ③ 院内における集合研修が実施できないため、導入したオンラインイベントシステムを活用し、様々な研修会、勉強会等をWeb配信にて実施した。 ④ 専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進し、各種資格取得等が図られた。特定行為研修についても、3名（栄養及び水分管理に係る薬剤投与に関連）の受講が修了した。 また、がん、脳卒中等の疾患で治療中の患者の療養と仕事の両立支援を目的とした、両立支援コーディネーター基礎研修について、5名が受講を修了した。	2	4	4	○ コロナ禍における看護学校実習生の受入れ、Webによる研修体制の整備、認定看護師等資格取得者の養成など、人材育成に積極的に取り組んでいる。 ○ 特定行為に係る看護師の指定研修機関として、初めての養成者が研修を修了した。また、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進し、職員の平均年休取得日数が昨年度より向上するとともに、看護師の離職率を、県内の平均値や全国の公立病院の平均値より低く抑えるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【新規資格取得者】 ・認定看護師 皮膚・排泄ケア看護 1 名 ・特定行為研修（1 分野） 3 名 ※当該支援制度による資格取得者（令和 3 年 3 月末現在） 専門看護師 1 名 認定看護師 18 名（10 分野） 特定行為研修修了者 6 名 ⑤ 令和 2 年 2 月に特定行為に係る看護師の指定研修機関の指定を受け、院内の受講生 3 名で開講した。医師をはじめとした各職種の協力体制のもと運営に取り組み、3 名とも無事に修了した。 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ禍でありながらも、実習生の受入れを継続するとともに、オンラインを活用した説明会や面接試験を実施するなど、人材確保に積極的に取り組んだほか、看護師の特定行為研修指定研修機関として、医師をはじめとした各職種の協力体制のもと運営に取り組み、無事に初年度を修了した。 また、看護職員の経験やスキルを確認し、必要な現場に必要な人材が配置できるよう、柔軟かつ臨機応変な人員配置を行うとともに、コロナ対応に直接従事する職員と、他の一般診療に従事する職員が相互に協力しながら、師長をはじめとした管理者によるきめ細かな配慮を行うなどの取組により、過酷な状況下でありながら、看護師の離職率を 5 % 台に抑えることができたことから、自己評価は「4」とする。 ※（参考）2019 年度福岡県看護職員離職率（正規雇用）：11.6%（2021 年 3 月 日本看護協会ニュースリリースより）				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	---

中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院 ① 日本小児総合医療施設協議会における臨床評価指標事業に引き続き参加し小児医療の質の向上に取り組む。 ② 感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により、院内感染防止対策を徹底する。また、医療安全管理者を中心としたTeamSTEPPSの推進によるリスクマネジメントや、医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ③ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ④ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させるとともに多職種による栄養サポートチーム（NST）により栄養管理の充実を図り、安全・安心な医療を提供する。 ⑤ PICUをはじめとする集中治療系病棟の安全性の向上及び、医師・看護師の負担軽減を図るため、薬剤師の病棟業務の推進や臨床工学部との連携体制を強化する。 ⑥ 入院中の患者の健やかな発達をサポートするため、歯科衛生士・保育士・管理栄養士による「歯育・保育・食育教室」を継続するとともに、1型糖尿病の患者に対して食事療養を支援するための「糖尿病教室」を継続する。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 昨年度に引き続き、小児医療の質の向上のため、日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）における臨床評価指標事業に参加し、全国のこども病院と連携して、小児医療特有の「臨床指標」の策定に取り組んだ。 ② コロナを含む感染防止対策の強化のため、感染対策室の専従看護師を2名に増員し、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、Web等を活用して地域の他医療機関との相互サーベイランスを2回実施した。 また、医療安全管理室による、リスクマネジメントや医療従事者への教育を目的としたTeamSTEPPS (Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) 推進の研修会を開催（2年度：5テーマ、元年度：3テーマ）するとともに、全職員を対象とした医療安全キャンペーンを2回実施するなど、医療安全対策の強化を図った。 ③ 職員向け院内クリニカルパス大会を1回（元年度：2回）開催するなど、クリニカルパス委員会を中心とした普及・啓発活動により、クリニカルパスの数は昨年度から6種類（6疾患）増加し46種類（52疾患）となり、退院患者に占めるクリニカルパスの使用率が42.5%（元年度：38%）となるなど、ケアの標準化、均質化による医療の質の向上を図った。 ④ 薬剤師による薬剤管理指導については、薬剤指導までのプロセスを見直すとともに、退院後の薬剤服用に関する指導を積極的に実施するなど、指導内容の充実を図ったが、集中治療系病棟への薬剤師配置により、薬剤管理指導件数は目標未達となった。 また、管理栄養士による栄養食事指導・相談については、主治医や病棟看護師と連携しながら適切に実施するとともに、多職種による	2	4	4	○ 一部の指標が目標値に達していないが、院内外の連携による感染防止対策や全職員対象とした医療安全キャンペーンによる医療安全対策などの強化、クリニカルパスの使用率の向上、薬剤管理指導や栄養指導などによる安全・安心な医療の提供に継続的に取り組んでいる。 ○ コロナ禍において、専従看護師の増員や部門間連携を推進し、感染防止対策を徹底することにより、院内クラスターを発生させず、医療機能を可能な限り維持したことなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
薬剤管理指導件数 (件)	5,803	9,100	薬剤管理指導件数 (件)	5,650	6,200
栄養食事指導・相 談件数 (件)	476	650	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,457	1,200

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
栄養サポートチーム（NST）により栄養管理の充実を図った。 ⑤ 集中治療系病棟における薬剤師の配置や、臨床工学部による人工呼吸器管理に係る院内ラウンド及び在宅移行支援を引き続き実施し、病棟の安全性の向上及び医師・看護師の負担軽減を図った。 ⑥ コロナ対策のため、「歯育・保育・食育教室」については、NSTの下部組織に「食育チーム」を設置し、集团的指導から当該チームによる対象患者への個別介入（6件）に切り替えるとともに、「糖尿病教室」についても、集団栄養指導を個別栄養指導（42件）に切り替え、入院・外来患者の健やかな発達をサポートする活動に継続的に取り組んだ。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>4,929</td><td>4,904</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談 件数（件）</td><td>1,412</td><td>1,332</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 薬剤管理指導件数については、集中治療系病棟へ薬剤師を配置し、リスクの高い分野での活動を重点化したことから目標値を下回ったが、専従職員の増員による感染防止対策の強化やTeamSTEPPS研修会の開催、クリニカルパスの数・使用率の増加等による医療安全対策の強化に積極的に取り組むとともに、コロナ感染拡大に伴い、従来の「歯育・保育・食育教室」を「食育チーム」と形態を変えて継続的に実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。	指標	福岡市立こども病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	薬剤管理指導件数 （件）	4,929	4,904	栄養食事指導・相談 件数（件）	1,412	1,332				
指標		福岡市立こども病院													
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値													
薬剤管理指導件数 （件）	4,929	4,904													
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,412	1,332													

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。	イ 福岡市民病院 ① 院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、他施設への感染専門医によるコンサルタント及び当院チームとの情報交換等を通じて更なる改善を図る。 ② 医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するとともに、他施設との医療安全相互チェックを継続し医療安全対策の徹底を図る。 ③ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化・均質化並びに医療の質の向上に努める。また、患者用パスの病院ホームページへの公開による治療内容の可視化や、インフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ④ 薬剤師による各種監査、病棟の薬品管理、服薬指導等を行い、安全管理体制の徹底に努める。また、管理栄養士による栄養食事指導、栄養サポートチーム（NST）による栄養管理の充実を図る。 ⑤ 日本病院会主催の「QIプロジェクト」等引き続き参加するとともに、令和元年度に設置したQMC（Quality in Medical Care）チームを中心に、臨床指標についてベンチマークによる比較評価や、経時的なデータ推移の分析等を行い、医療の質の向上を図る。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 感染症専門医を中心に、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により院内感染防止対策を徹底するとともに、Web会議システムを活用し、他病院との共同カンファレンス（3回）や相互ラウンド（2回）等を通じて、耐性菌検出状況や抗菌薬適正使用への取組、感染対策に関する情報交換、第三者的視点からの相互評価等を行った。 コロナへの対応については、従来より培ってきた感染予防対策に加え、院内の全職員を対象とした防護服着脱訓練や患者受入訓練を継続して実施するとともに、オンライン研修等を通じて、感染症への理解を深め、徹底した感染予防対策に取り組んだ。 ② 医療安全対策地域連携ネットワークにおいて、Web会議システムを活用して参加施設間での意見交換・相互評価を実施（3回）し、自院だけでなく地域における医療安全対策の質の向上に取り組んだ。 ● 医療安全管理者を中心に、全職員を対象としたオンラインによる研修会を実施するとともに、今年度初めて日本医療機能評価機構の医療安全文化調査活用支援事業に参加し、医療安全文化を定量的に測定し、現状の把握と課題を明らかにすることを目的として、全職員を対象に医療安全文化調査を実施した。 全国の参加医療機関との比較において、当院の強み・弱みを分析するとともに、部署単位での課題等を明確化したことで、今後の改善につなげていく。 ③ クリニカルパス委員会において、より分かりやすい表現に統一するなど、35種類ある全ての患者用クリニカルパスの改訂を行った。 ④ 薬剤師による処方監査・調剤監査や持参薬の確認、病棟の薬品管理、服薬指導等を行い、安全管理体制の徹底に努めた。 管理栄養士による栄養食事指導については、引き	2	3	4	○ 院内感染対策については、全職員を対象とした訓練や研修による医療安全対策の徹底、他病院との相互評価、全てのクリニカルパスの改定などに取り組んでいる。 ○ これらの様々な取組により、院内クラスターを発生させず医療機能を可能な限り維持するとともに、感染予防策の有効性について検証し、学会誌への論文発表を通じてその成果を公表するなどの取組を行った。また、医療安全に関する組織のあり方について新たな調査を実施し、客観的な分析や改善に取り組むなど、年度計画を上回って実践していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画																							
【目標値】 <table> <tr> <th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr> <tr> <th>平成27年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>9,713</td><td>9,400</td></tr> <tr> <td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>1,220</td><td>1,200</td></tr> </table>	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	令和2年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	9,713	9,400	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,220	1,200	【目標値】 <table> <tr> <th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr> <tr> <th>平成30年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>9,509</td><td>8,640</td></tr> <tr> <td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>1,033</td><td>1,000</td></tr> </table>		指標	福岡市民病院		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	9,509	8,640	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,033	1,000
指標		福岡市民病院																						
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値																						
薬剤管理指導件数 (件)	9,713	9,400																						
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,220	1,200																						
指標	福岡市民病院																							
	平成30年度 実績値	令和2年度 目標値																						
薬剤管理指導件数 (件)	9,509	8,640																						
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,033	1,000																						

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
続き取り組んだ。 また、認知症ケアやがん患者に対するケア、指導管理等について、専門看護師や認定看護師を中心に多職種で連携して取り組むことにより、適切に対応できた。 ⑤ 臨床指標の見直しやベンチマークによる比較評価、経時的なデータ推移の分析等を行い、適宜、臨床現場や関連委員会等へフィードバックを行うなど、更なる医療の質の向上を図る取組を進めた。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>9,588</td><td>7,982</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談 件数 (件)</td><td>1,144</td><td>882</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 目標値については、コロナの影響による患者数の減少等に伴い、目標を大きく下回ったものの、院内感染防止対策・医療安全対策やクリニカルパスの改訂、多職種によるチーム医療の実践等に加えて、新たに医療安全文化調査を実施するなど、コロナ禍にあっても医療の質の向上に継続して取り組んだことから、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	薬剤管理指導件数 (件)	9,588	7,982	栄養食事指導・相談 件数 (件)	1,144	882				
指標		福岡市民病院													
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値													
薬剤管理指導件数 (件)	9,588	7,982													
栄養食事指導・相談 件数 (件)	1,144	882													

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実
-----------------	---

中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実 ① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実 ① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。 ③ こども病院における戦略的分析チーム（S a T）による活動など、定期的なプレゼンテーションを通じて、病院運営や経営改善に対する提案を行っていく。

中期目標(内容)	地方独立行政法人制度の特長を活かし、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善ができるよう、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、自律性を発揮できる運営管理体制の充実を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会を計9回開催し、理事会の決定方針に沿って自律的な運営を行った。なお、コロナの影響により、福岡県が緊急事態措置を実施すべき区域に指定された際は、必要に応じてW e b 会議で開催するなど運営に支障がないよう対応した。（4月：中止、1月、2月：W e b 開催） ② 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに対応ができるよう、適宜、執行部会議（福岡市立こども病院）や経営五役会議（福岡市民病院）等を定期的に開催し、迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に則した機動性の高い病院経営に取り組んだ。 また、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、経営状況の把握や年度計画の進捗状況等を管理し、機構全体的な視点から、経済性・効率性の追求を徹底するなど、市立病院として適切な独法運営に取り組んだ。 ③ 福岡市立こども病院においては、若手から中堅職員による組織横断的な戦略的分析チーム（S a T）による活動が行われ、計9回（元年度：11回）のプレゼンテーションを実施し、病院運営や経営改善に関する4つの提案が実行された。 ・安否確認システムの導入と活用に関する提案 ・業務改善や意見収集のためのツール（職員の声）の提案 ・業者出入りを最小限に抑え、職員の働き方見直し・改善を推進するためのリモート接続の提案 ・グループウェアを導入し、院内の情報共有を強化する提案 【自己評価の判断理由】 ○ W e b など活用し、理事会や執行部会議等を適宜開催し、迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うなど、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 病院長のリーダーシップの下での機動性の高い病院経営、機構全体的な視点からの経済性・効率性の追求など、地方独立行政法人制度の特長を活かした運営管理体制の充実を図っており、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 事務部門の機能強化
中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 事務部門の機能強化 ① 経営状況や医療を取り巻く情報を整理・分析する能力など、事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援するための制度の導入を検討する。 ② 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、情報共有の徹底やOJTの充実を図るとともに、職員のキャリアプランを踏まえた人事異動を通して、事務部門の更なる機能強化に努める。	2 事務部門の機能強化 ① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、事務のマニュアル化や業務の可視化等に努めるとともに、IT技術の更なる活用を図り、情報共有や業務の効率化を推進する。 ② 事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、テーマごとの職場内研修等の実施により、効果的なOJT (On the Job Training) に繋げる。 ③ 職員のキャリアプランを踏まえた適材適所の人事配置に努める。 ④ 事務作業の自動化・効率化を推進することを目的に導入したRPA (Robotic Process Automation) について更に活用し、事務作業の軽減を図る。

中期目標(内容)	各病院の経営支援を的確に行うことができる人材や、医療を巡る環境変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、その専門的知識やスキルを習得するための研修を計画的に実施するとともに、市立病院としてのノウハウを確実に蓄積し、事務部門の更なる機能強化に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の経理担当者会議等を行うとともに、システムエンジニアを1名増員し、ANP I C (安否情報システム) やW e b 会議システムの導入、労務管理システムの見直しなど事務の簡素化・効率化等に努めた。 ② 事務の新規採用職員(3名)を対象に、社会人として必要な考え方・基本行動の体得等を目的とした外部のW e b 研修を受講した。 ③ 事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアプランを踏まえ、運営本部及び両病院間における人事異動を実施した。 ④ 福岡市立こども病院においては、事務作業の自動化・効率化を目的として、R P A (Robotic Process Automation) による給与明細の電子メール配付の試行を開始した。 また、ワークフローシステムによる院内の申請・承認・決裁業務の電子化を開始するとともに、各部署から選出したメンバーで構成するDX (Digital Transformation) ワーキングチームを立ち上げ、I C T (情報通信技術) 導入による業務効率化に多角的に対応するための検討を開始した。 【自己評価の判断理由】 ○ 担当者会議や研修等を実施するとともに、事務の簡素化・効率化等に努めるなど年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 新規職員の採用や人事異動、各種システムの導入による事務の簡素化・効率化、R P Aによる事務作業の自動化・効率化など、事務部門の更なる機能強化に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 働きがいのある職場環境づくり
中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 3 働きがいのある職場環境づくり ① 職員ニーズ等を踏まえ、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児・介護などを支援する制度の利用促進や組織全体の意識改革を図り、職員が働きやすい職場環境の整備に努める。 ② 職員のモチベーションの維持・向上を図るため、人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、社会情勢の変化等に適合しつつ、職員の意欲を引き出すよう、人事・給与制度について、適宜、見直しを行う。	3 働きがいのある職場環境づくり ① 職員が安心して働き続けることができるよう、福利厚生 of 更なる充実に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、制度の周知徹底はもとより、研修や会議等を通じて、所属長を始め職員の意識改革を図る。 ② 育児・介護などを支援する制度の利用促進や、年次有給休暇取得日数の向上、時間外勤務の縮減等に取り組む。 ③ 社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度の改善に取り組む。 ④ これまで試行的に実施してきた医師以外の管理職を対象とした目標管理制度について、職員のモチベーション向上を図る観点から、業績が賞与に反映される仕組みを構築する。 ⑤ 医師の働き方改革への対応のため、各職種によるタスクシフティングを進めるなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に継続的に取り組む。 ⑥ 労働施策総合推進法改正の趣旨を踏まえ、職場におけるパワーハラスメント防止について、雇用管理上必要な措置を講じる。

中期目標(内容)	職員の福利厚生の実現やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを行い、職員が働きやすい職場環境の整備に努めること。 また、職員の業績や能力を公正かつ客観的に評価できるように人事評価制度の改善を行い、職員のモチベーションの維持・向上を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① コロナの流行に伴い、職員の発熱時やコロナによる小学校休業等に伴い子の世話のために出勤することが困難な場合の特別休暇等を整備するなど、福利厚生の実現に取り組んだ。 福岡市立こども病院では、全職員向けのメンタルヘルス研修会を1月に開催した。また、院内のワークライフバランス委員会にて、職員満足度調査を実施し、職員の要望等を把握するとともに、11月にWebのアンケートフォームを活用して、職員が気軽に職場改善の提案ができる「職員の声」を開設した。(提案数15件) ② 年次有給休暇の積極的取得等、職員の仕事と家庭の両立及び働きやすい職場環境の整備等を促進するため、第3期一般事業主行動計画を策定し、職員に周知した。 ③ コロナ対応を行う職員に対する特殊業務手当(新型コロナウイルス感染症従事手当)の創設や国の補助金の趣旨に則り一時金を支給した。 ④ 令和2年4月から医師以外の管理職を対象に、モチベーションの向上を目的とした人事評価制度(管理職目標管理制度)を導入した。 ⑤ 医師事務作業補助者の増員や特定行為看護師の育成等を行い、医師の負担軽減に努めた。 ⑥ 6月に法改正の趣旨を踏まえた職員就業規則の改正を行い、福岡市民病院においては、改正労働施策総合推進法の施行を受けて、全職員対象のパワーハラスメント研修を2月に実施した。(参加率42%) 【自己評価の判断理由】 ○ コロナに対応した特別休暇や給与制度等を整備するとともに、人事評価制度などを実施するなど年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ コロナ禍の下での実情に応じた休暇等や手当等の整備、職場改善提案制度の実施、第3期一般事業主行動計画の策定、管理職目標管理制度の導入など、職員が働きやすい職場環境の整備や人事評価制度の改善を図っており、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 4 法令遵守と公平性・透明性の確保
中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 4 法令遵守と公平性・透明性の確保 ① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底するとともに、市立病院として公平性・透明性を確保した適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。	4 法令遵守と公平性・透明性の確保 ① 各種研修制度の拡充や組織の管理体制等の強化により、関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底する。 ② 監事（弁護士、公認会計士）及び会計監査人による監査等の実施により、内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な病院運営を行う。 ③ 個人情報保護及び情報資産管理に関しては、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底する。また、カルテ等の診療情報に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。

中期目標(内容)	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理に従い、市立病院の運営を担う地方独立行政法人として、公平性・透明性を確保した病院運営を行うこと。 また、個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 新規採用職員研修など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 ② 市立病院機構全体の業務の適正及び効率性の検証を行うため、監事（弁護士、公認会計士）による監査を行った。 ③ 個人情報保護及び情報公開に関しては、セキュリティ委員会を開催（2回）するとともに、福岡市立こども病院においては、11月に個人情報保護・コンプライアンス研修会を開催して職員の教育を徹底するなど、福岡市の関係条例等及び当機構の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応した。 また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録（カルテ）開示委員会で開示の可否を決定した。（福岡市立こども病院20件、福岡市民病院59件） 【自己評価の判断理由】 ○ コンプライアンスや情報セキュリティについての研修を実施するとともに、情報公開についても適切に対応するなど、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 職員への服務規律の指導徹底による行動規範と倫理観の確立、個人情報保護・コンプライアンス研修会等による職員教育、診療録開示委員会の開催など、市立病院として法令遵守と公平性・透明性の確保に努めており、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減
----------	--

中期計画	年度計画																												
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 財務状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで収支改善に取り組み、将来的にも安定した経営を行うことができるよう、更なる経営基盤の強化を図る。 また、市立病院として求められる医療を提供しつつ、より一層の経営の効率化や健全化を進め、運営費負担金の縮減に努める。	第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 ア 福岡市立こども病院 ① 毎週開催の執行部会議、毎月開催の運営会議において、病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで、増収及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。																												
【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>99.8</td><td>102.9</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>101.9</td><td>102.9</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>84.0</td><td>85.8</td></tr></table> ※ 平成27年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	令和2年度 目標値	総収支比率	99.8	102.9	経常収支比率	101.9	102.9	医業収支比率※	84.0	85.8	【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成30年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>110.9</td><td>105.0</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>110.9</td><td>105.0</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>96.3</td><td>90.3</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値	総収支比率	110.9	105.0	経常収支比率	110.9	105.0	医業収支比率	96.3	90.3
指標		福岡市立こども病院																											
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値																											
総収支比率	99.8	102.9																											
経常収支比率	101.9	102.9																											
医業収支比率※	84.0	85.8																											
指標	福岡市立こども病院																												
	平成30年度 実績値	令和2年度 目標値																											
総収支比率	110.9	105.0																											
経常収支比率	110.9	105.0																											
医業収支比率	96.3	90.3																											

中期目標(内容)	福岡市立こども病院の移転・開院を踏まえ、将来的にも安定した経営を行うことができるよう経営基盤を強化すること。 また、福岡市の厳しい財政状況を踏まえると、引き続き市立病院機構全体の運営費負担金の縮減に向けた更なる取組みが求められることから、より一層の経営の効率化や健全化を進めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価															
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど														
ア 福岡市立こども病院 ① 執行部会議や運営会議を定期的を開催し、コロナ禍で患者数が減少する等の厳しい状況に対して、効率的な病院経営について検討を重ね、決定事項等については迅速に所属長へ周知し、対策に取り組んだ結果、経常収支比率は目標値を下回ったものの、100%台を維持することができた。 【実績値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>108.2</td><td>104.6</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>108.2</td><td>104.3</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>93.4</td><td>86.1</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ禍での患者数の減少等により、経常収支比率及び医業収支比率ともに年度計画の目標値を下回ったものの、黒字を達成しているとともに、中期計画最終年度の目標値との比較では、コロナの影響を考慮すると遜色のない実績値となっていることなどを総合的に判断し、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市立こども病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	総収支比率	108.2	104.6	経常収支比率	108.2	104.3	医業収支比率	93.4	86.1	2	3	3	○ 効率的な病院経営に取り組んだものの、コロナの影響を受けて全ての指標で目標値を下回っている。 ○ 一方で、総収支比率や経常収支比率は、100%を超えており、また目標値との乖離が小幅にとどまっていることを勘案し、年度計画を順調に実施していると判断して、「評価3」とする。
指標		福岡市立こども病院																
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値																
総収支比率	108.2	104.6																
経常収支比率	108.2	104.3																
医業収支比率	93.4	86.1																

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項
	1 経営基盤の強化 （1）経営基盤の強化と運営費負担金の縮減

中期計画	年度計画																												
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 財務状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にした上で収支改善に取り組み、将来的にも安定した経営を行うことができるよう、更なる経営基盤の強化を図る。 また、市立病院として求められる医療を提供しつつ、より一層の経営の効率化や健全化を進め、運営費負担金の縮減に努める。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>101.3</td><td>103.2</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>106.0</td><td>103.2</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>92.1</td><td>94.8</td></tr></table> ※ 平成27年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	令和2年度 目標値	総収支比率	101.3	103.2	経常収支比率	106.0	103.2	医業収支比率※	92.1	94.8	イ 福岡市民病院 ① 現在の経営状況を踏まえ、市立病院として求められる高度専門、救急医療を提供しつつ、病床稼働率の向上、救急患者の受入れ及び手術件数の増加を図ることで、収益の確保に努める。併せて、経営効率化を念頭に置き、医療の質を担保しながら人員体制等の最適化を徹底するなど、医業費用の縮減に努める。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成30年度 実績値</th><th>令和2年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>100.6</td><td>100.1</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>100.6</td><td>100.1</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>92.6</td><td>90.5</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値	総収支比率	100.6	100.1	経常収支比率	100.6	100.1	医業収支比率	92.6	90.5
指標		福岡市民病院																											
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値																											
総収支比率	101.3	103.2																											
経常収支比率	106.0	103.2																											
医業収支比率※	92.1	94.8																											
指標	福岡市民病院																												
	平成30年度 実績値	令和2年度 目標値																											
総収支比率	100.6	100.1																											
経常収支比率	100.6	100.1																											
医業収支比率	92.6	90.5																											

中期目標(内容)	福岡市立こども病院の移転・開院を踏まえ、将来的にも安定した経営を行うことができるよう経営基盤を強化すること。 また、福岡市の厳しい財政状況を踏まえると、引き続き市立病院機構全体の運営費負担金の縮減に向けた更なる取組みが求められることから、より一層の経営の効率化や健全化を進めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価															
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど														
イ 福岡市民病院 ① コロナ対策における福岡市の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療、救急医療について、可能な限り通常診療の継続に取り組んだが、コロナの影響による受診控えや、4病棟ある一般病棟のうち、1病棟をコロナ専用病棟としたことによる入院患者数の減少等の影響により、医業収益が減収となった。また、コロナ対応のためのPCR検査の外注検査委託費等の経費も増加し、医業収支比率は目標値を大きく下回った。一方で、国や県の補助金により、必要な経費の補填等に努めた結果、経常収支比率は目標値を上回った。 【実績値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>95.8</td><td>110.0</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>95.8</td><td>109.5</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>87.2</td><td>79.2</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響による患者数や手術件数の減少及び予定していた収益確保策や費用削減策が計画通りに実施できなかったことから、医業収支比率は目標を達成できなかった。 一方で、コロナ対応に対する国や県の補助金により、必要な経費の補填等に努めた結果、経常収支比率は目標を達成していることから、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	総収支比率	95.8	110.0	経常収支比率	95.8	109.5	医業収支比率	87.2	79.2	2	3	3	○ 高度専門医療、救急医療に継続的に取り組んだが、指標については、コロナ禍の影響により医業収支比率が目標値を下回っている。 ○ 一方で、総収支比率と経常収支比率においては、目標を達成していることを勘案し、年度計画を順調に実施していると判断して、「評価3」とする。
指標		福岡市民病院																
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値																
総収支比率	95.8	110.0																
経常収支比率	95.8	109.5																
医業収支比率	87.2	79.2																

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保
----------	--

中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。	(2) 投資財源の確保 ① 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。

中期目標(内容)	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 収支改善により生じた利益を積立て、今後の投資計画を踏まえた投資財源の確保を図り、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入など、効果的な投資を行った。 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ禍においても、収支改善は図られており、利益の積立てなどによる投資財源の確保や、施設整備などの効果的な投資が図られていることから、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 収支改善による利益確保や、価格交渉の徹底による費用の抑制などにより、自己財源の確保が図られていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 （1）収益確保
中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 （1）収益確保 ① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 ② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。 ③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。	2 収支改善 （1）収益確保 ア 福岡市立こども病院 ① 循環器、周産期及び手術・集中治療センターを中心に、関連科との連携を密にし、高度専門医療、小児救急医療及び周産期医療の充実並びに病院設備の効率的な稼働を図る。 ② 診療報酬改定に伴い、的確な情報収集を行い、適切な施設基準の取得や維持管理に努める。 ③ 計画的な入院と早期退院を推進することを目的に立ち上げた、早期離床リハビリテーションチームについて、更なる提供体制の充実を図り、早期離床・リハビリテーション加算を取得する。 ④ 保険診療検討ワーキングチームを中心に査定内容の分析等を行うとともに、レセプト精度調査を実施し、診療報酬請求の更なる精度向上に努める。 ⑤ 医事課職員やMSWによる患者相談の充実等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、回収困難事案については、法律事務所への業務委託によって確実な回収を図る。また、令和2年4月の民法改正による連帯保証人制度の見直し等について、誓約書の書式変更等適切に対応する。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的な収益の確保に努めること。 また、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 毎週行われる執行部会議において、各センター長を含む病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、病棟間の人員配置を弾力的に行う等、効率的な病棟運用の施策を講じた。 ② 4月の診療報酬改定に際し、コロナの影響で診療報酬改定説明会が開催されなかったことを踏まえ、当院の診療内容と関連する改定内容を抜粋し、まとめた情報を「医事係通信」として定期的に院内に発信(5回)し、関連部署における改定内容の理解向上を図った。 ③ 小児を対象とした早期離床・リハビリテーションに係る学会指針がないことから、早期離床・リハビリテーション加算の取得はできなかったが、医師、看護師、理学療法士等の多職種で構成する早期離床リハビリテーションチームによる、P I C U (小児集中治療室)患者へのリハビリテーションを引き続き実施し、患者の早期回復・支援に努めるとともに、定期的に当該リハビリテーションに係るプロトコルの見直しを行った。 ④ 院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に、病院全体で診療報酬請求プロセスの改善活動を実施した結果、一次査定率を0.13%に抑えることができた。(元年度:0.07%) また、レセプト精度調査を実施し、診療録及び伝票の記載状況とレセプトの整合性を突合することにより、保険請求が正確に行われているか第三者の目による確認を行った。 ⑤ 医療費の未収金については、患者相談を適宜実施し、分納や後日支払い等の働きかけを行うことで未然に発生を防止するとともに、回収困難事例については弁護士事務所に委託し、確実な回収を図った。 また、令和2年4月の民法改正に対して、入院申込書兼誓約書の連帯保証人欄に保証極度額を明示する等、適切に対応した。	2	3	3	○ 指標が目標値に達しないものもあるが、効率的な病棟運用、診療報酬請求プロセスの改善活動による査定減点の回避、患者相談の充実や弁護士事務所への業務委託による未収金対策に努め、目標の未達を最小限にとどめていることなどを勘案し、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,400	1人1日当たり 入院単価（円）	107,411	108,100
1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700	1人1日当たり 外来単価（円）	11,645	11,700
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	184.4 (78.0)	207.8 (86.9)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	221.6 (92.7)	215.6 (90.2)
新規入院患者数（人）	6,038	6,200	新規入院患者数 （人）	7,424	7,450
平均在院日数（日）	10.2	11.2	平均在院日数（日）	9.9	9.7
1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0	1日当たり 外来患者数（人）	384.8	380.0
手術件数（件）	2,447	2,650	手術件数（件）	3,018	2,900
救急搬送件数（件）	1,028	1,050	救急搬送件数（件）	1,516	1,400

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																														
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
【実績値】 《再掲》 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和２年度 実績値</th></tr><tr><td>１人１日当たり 入院単価（円）</td><td>108,393</td><td>112,693</td></tr><tr><td>１人１日当たり 外来単価（円）</td><td>11,492</td><td>11,959</td></tr><tr><td>１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>215.5 (90.2)</td><td>187.8 (78.6)</td></tr><tr><td>新規入院患者数(人)</td><td>7,428</td><td>6,195</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>9.7</td><td>10.1</td></tr><tr><td>１日当たり 外来患者数（人）</td><td>389.5</td><td>353.3</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,929</td><td>2,603</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,380</td><td>980</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		令和元年度 実績値	令和２年度 実績値	１人１日当たり 入院単価（円）	108,393	112,693	１人１日当たり 外来単価（円）	11,492	11,959	１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	215.5 (90.2)	187.8 (78.6)	新規入院患者数(人)	7,428	6,195	平均在院日数（日）	9.7	10.1	１日当たり 外来患者数（人）	389.5	353.3	手術件数（件）	2,929	2,603	救急搬送件数（件）	1,380	980				
指標		福岡市立こども病院																															
	令和元年度 実績値	令和２年度 実績値																															
１人１日当たり 入院単価（円）	108,393	112,693																															
１人１日当たり 外来単価（円）	11,492	11,959																															
１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	215.5 (90.2)	187.8 (78.6)																															
新規入院患者数(人)	7,428	6,195																															
平均在院日数（日）	9.7	10.1																															
１日当たり 外来患者数（人）	389.5	353.3																															
手術件数（件）	2,929	2,603																															
救急搬送件数（件）	1,380	980																															
【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響により、主な目標値は達成で きなかったが、患者数が減少する等の厳しい 状況に対して、効率的な病棟運用の施策を講 じるとともに、保険診療検討ワーキングチー ムを中心とした診療報酬請求プロセスの改善 活動（レセプト一次査定率の減）に取り組む など、収益の確保を図ったこと等を踏まえ、 自己評価は「３」とする。																																	

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 （1）収益確保
中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 （1）収益確保 ① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 ② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。 ③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。	イ 福岡市民病院 ① 紹介元医療機関への訪問活動の強化や後方病院への医師派遣等を通じて重症患者の適切な確保に取り組む。また、ベットコントロールの権限を一元化してより円滑な入院受入体制を強化するとともに、より効率的な病床管理に取り組むなど、病床稼働率の向上により収入増を図る。 ② 診療報酬改定に適切に対応し、施設基準の取得や維持管理に努める。特に重症度、医療・看護必要度については、モニタリングや分析を精緻に行い、施設基準を維持する。 ③ レセプトチェックシステムの定期バージョンアップを行い、レセプト請求前の精度を強化するとともに、各診療科の医師と連携し、より正確なレセプト請求を行う。また、未収金については、未収金対応マニュアルを活用し、引き続き未収金発生防止や確実な回収を行う。 ④ 外来に設置したデジタルサイネージ等への企業広告の導入により、医業外収益の確保を図る。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的な収益の確保に努めること。 また、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① コロナの影響により、紹介元医療機関への訪問活動は縮小せざるを得なかった。また、4病棟ある一般病棟のうち1病棟をコロナ専用病棟としたため、他の一般病棟のベッドコントロールに著しい支障を来したことから、コロナ終息後の運用も踏まえ、適正な病棟運用のために一般病棟の病床数を見直し、令和3年度の再編成に向けた準備を行った。 ② 診療報酬改定により新設された地域医療体制確保加算を取得し、2,000万円余の増収となった。 また、高度に石灰化した動脈硬化症例に対する新規手技（ロータブレーター）導入による経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）、高難度な腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除、1区域切除（外側区域を除く）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）の施設基準の取得により、5,960万円余の増収となった。 ※経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）：10件 ※腹腔鏡下肝切除術：元年度7件、2年度39件 うち、施設基準上の新規対象分：24件 ③ レセプトチェックシステムのカスタマイズを引き続き行うとともに、各診療科医師との連携を図り、正確なレセプト請求を行った。 9月に診療録とレセプトの整合性に係るレセプト精度調査を行い、レセプト請求精度の確認を行うとともに、改善点を各診療科へフィードバックし、レセプト請求の精度向上に取り組んだ。 また、未収金については、未収金対応マニュアルを活用して、電話及び文書による督促や分納相談等により回収を行うとともに、回収困難案件については、法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。 ④ 外来に設置したデジタルサイネージ等への企業広告を導入し、年間290万円余の医業外収益を確保した。 ● 院内に、ICU（集中治療室）稼働率の向上と救急搬送件数、難易度の高い手術件数の確保を目的として、組織横断的な「ICU・	2	3	3	○ 指標が目標値に達しないものもあるが、効率的な病棟運用、診療報酬請求プロセスの改善活動による査定減点の回避、患者相談の充実や弁護士事務所への業務委託による未収金対策に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】 《再掲》			【目標値】 《再掲》		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	令和 2 年度 目標値		平成30年度 実績値	令和 2 年度 目標値
1 人 1 日当たり 入院単価（円）	64, 749	67, 000	1 人 1 日当たり 入院単価（円）	67, 382	68, 172
1 人 1 日当たり 外来単価（円）	22, 739	18, 200	1 人 1 日当たり 外来単価（円）	22, 569	22, 700
1 日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	183. 7 (90. 1)	183. 6 (90. 0)	1 日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	191. 1 (93. 7)	191. 8 (94. 0)
新規入院患者数(人)	4, 510	4, 800	新規入院患者数 （人）	4, 895	4, 900
平均在院日数（日）	12. 6	12. 5	平均在院日数（日）	12. 4	12. 5
1 日当たり 外来患者数（人）	234. 2	250. 0	1 日当たり 外来患者数（人）	232. 6	230. 0
手術件数（件）	3, 060	3, 100	手術件数（件）	3, 834	3, 860
救急搬送件数（件）	2, 620	2, 800	救急搬送件数（件）	3, 130	3, 000

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																														
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
救急プロジェクト」を立ち上げ、プレ会議を2回、本会議を2回開催し、情報共有と課題の把握、対策立案に向けた準備を進めた。 令和2年度はICUへの術後転入について重点的に協議を行い、加算対象となる入室患者や術後転入の増加により、下半期のICU稼働率は68.4%（元年度59.0%）となるとともに、診療単価は462,352円（元年度329,374円）と向上し、8,700万円余の増収となった。 ● 当院で不要となった医療機器について、中古医療機器買取業者に売却し、総額110万円余の医業外収益を確保した。 【実績値】 《再掲》 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>64,081</td><td>73,748</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>22,965</td><td>24,077</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））</td><td>183.9 (90.2)</td><td>160.0 (78.4)</td></tr><tr><td>新規入院患者数(人)</td><td>4,525</td><td>4,026</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>12.7</td><td>13.0</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>219.7</td><td>197.3</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>3,719</td><td>3,625</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>2,820</td><td>2,411</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響による患者数、手術件数等の減及び収益確保策を予定通り実施できなかったこと等により、医業収益は減収となり、多くの指標で目標値を下回った。しかし、診療報酬改定や新たな手術手技の導入により増収となるとともに、ICUの稼働率向上及び救急搬送件数の増加に向けたプロジェクトを立ち上げ、下半期のICU稼働率を向上させた。 施設基準の取得や診療報酬単価の高い手術の増加等の結果、診療単価はコロナ特例による診療報酬加算を除いても目標値を上回っており、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	64,081	73,748	1人1日当たり 外来単価（円）	22,965	24,077	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	183.9 (90.2)	160.0 (78.4)	新規入院患者数(人)	4,525	4,026	平均在院日数（日）	12.7	13.0	1日当たり 外来患者数（人）	219.7	197.3	手術件数（件）	3,719	3,625	救急搬送件数（件）	2,820	2,411				
指標		福岡市民病院																															
	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値																															
1人1日当たり 入院単価（円）	64,081	73,748																															
1人1日当たり 外来単価（円）	22,965	24,077																															
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	183.9 (90.2)	160.0 (78.4)																															
新規入院患者数(人)	4,525	4,026																															
平均在院日数（日）	12.7	13.0																															
1日当たり 外来患者数（人）	219.7	197.3																															
手術件数（件）	3,719	3,625																															
救急搬送件数（件）	2,820	2,411																															

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (2) 費用削減
中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (2) 費用削減 ① 診療材料や医薬品等の調達に係る価格交渉の徹底、契約手法や委託業務の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ② 両病院とも、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 ① 診療材料の同種同効品への切り替えや、ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに、経費全般においても価格交渉の徹底や契約手法の見直しに努め、削減を図る。 ② こども病院においては、平成29年度からSPD業務の見直しを図り、従来の物品管理業に加え調達業務も委託する内容に変更しており、必達削減額以上の成果が出せるよう、受託業者と協力して更なる費用削減に取り組む。 ③ 市民病院においては、中長期修繕計画に基づき、施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに、省エネ対策の更なる検討・取組を行うことにより、維持修理に係る費用の削減を図る。 また、多職種によるCOP（Cost Optimization）チームを中心にベンチマークを活用しながら受託業者と積極的に連携し、更なる材料費の縮減等に取り組む。

中期目標(内容)	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的・効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 診療材料の同種同効品への切替えや、ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに、経費全般においても価格交渉の徹底、契約手法の見直しに努め、削減を図った。 ② 福岡市立こども病院においては、施設の維持管理を行うPFI事業者と協議しながら計画的な修繕を行った。 また、診療材料については、積極的にSPD（医療材料物流管理）受託業者と連携・協力し、更なる価格交渉を徹底した結果、材料費を約2,500万円削減した（削減額は、SPD委託契約前年度（28年度）の購入単価を基準として算出）。 ③ 福岡市民病院においては、SPD事業者による診療材料費に係る他院とのベンチマークデータを活用し、院内のCOP（Cost Optimization）チームを中心として分析を行った結果、平均単価よりも高く購入している診療材料が40%程度存在していることが判明したため、特にその差額が大きいディーラーに対しては、医師やメディカルスタッフ等多職種で協働して価格交渉を行い、試薬については、令和3年1月以降の1年間で350万円余の削減見込みとなった。 また、SPD導入により蓄積された購買実績データを活用した診療材料の価格交渉等に努めた結果、材料費を約1,350万円削減した。 さらに、ボイラー設備、高架水槽、厨房空調機器など必須のものについては着実に更新作業を完了させるとともに、中長期修繕計画を見直し、修繕項目の絞り込みを行うなど、歳出削減に取り組んだ。	2	3	3	○ コロナの影響により、特に給与費に係る指標については目標値を大きく下回っているが、SPD事業者との連携やベンチマークデータの活用した診療材料費の節減、施設・設備の維持修繕費用の削減に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】 (単位：%)			【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
給与費対医業収益比率	58.7	60.4	給与費対医業収益比率	53.6	59.7
材料費対医業収益比率	21.1	19.6	材料費対医業収益比率	17.9	18.0
うち薬品費対医業収益比率	8.0	7.4	うち薬品費対医業収益比率	5.9	5.6
うち診療材料費対医業収益比率	12.9	11.9	うち診療材料費対医業収益比率	11.7	12.0
委託費対医業収益比率	9.9	10.2	委託費対医業収益比率	8.9	10.5
ジェネリック医薬品導入率	47.4	80.0	ジェネリック医薬品導入率 ※	85.0	83.7
			※ ジェネリック医薬品については、数量の割合で算出している。以下同じ。		
【目標値】 (単位：%)			【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	令和2年度 目標値		平成30年度 実績値	令和2年度 目標値
給与費対医業収益比率	55.6	55.7	給与費対医業収益比率	56.4	59.3
材料費対医業収益比率	30.0	24.2	材料費対医業収益比率	28.7	26.1
うち薬品費対医業収益比率	12.4	8.6	うち薬品費対医業収益比率	9.2	8.4
うち診療材料費対医業収益比率	17.5	15.5	うち診療材料費対医業収益比率	19.5	17.7
委託費対医業収益比率	6.4	7.0	委託費対医業収益比率	7.1	7.5
ジェネリック医薬品導入率	69.3	83.0	ジェネリック医薬品導入率	88.6	88.5

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】 (単位：％)						
指標	福岡市立こども病院					
	令和元年度 実績値	令和２年度 実績値				
給与費対医業収益比率	56.2	64.5				
材料費対医業収益比率	17.5	18.1				
うち薬品費対医業収益比率	5.5	5.6				
うち診療材料費対医業収益比率	11.6	12.2				
委託費対医業収益比率	9.3	10.7				
ジェネリック医薬品導入率 ※	89.9	85.8				
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。以下同じ。						
【実績値】 (単位：％)						
指標	福岡市民病院					
	令和元年度 実績値	令和２年度 実績値				
給与費対医業収益比率	62.9	70.5				
材料費対医業収益比率	27.0	27.6				
うち薬品費対医業収益比率	8.4	7.6				
うち診療材料費対医業収益比率	18.4	19.7				
委託費対医業収益比率	7.6	8.0				
ジェネリック医薬品導入率	88.7	89.1				
【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響による医業収益の減と、コロナ対応のための手当の増加等により、給与費比率が大きく目標値を下回った。 また、コロナ対応のためのPCR検査の外注検査委託費や消耗品等の増加により、その他の指標も概ね目標を下回った。 一方で、費用削減の取組を継続して行い、診療材料費の削減等で成果を挙げているため、総合的に判断し、自己評価は「３」とする。						

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実
中期計画	年度計画
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実 中核的な小児総合医療施設としての役割を果たすため、高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、治験や臨床データ解析等の臨床研究、国際的な視野に立った職員の人材育成等に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展に貢献する。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進める。	第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実 ① 臨床研究や検証的臨床試験に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献する。 ② 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、研修活動等を行う。 ③ 高度医療を行う小児総合医療施設として患者の治療・救命に全力を尽くすとともに、患者・家族の選択肢の一つとして、臓器提供の申し出がなされた際は円滑に対応できるよう、院内の体制の確立に向け必要な取組を行う。 ④ ふくおかハウスにおける将来的な改修費用等に係る資金確保が図られるよう、個人や企業からの支援確保に向け積極的な情報発信や働きかけを行っていく。 ⑤ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進める。 ⑥ 熱帯感染症等の診断と治療を実践的に学ぶため、タイ王国の大学へ医師等を派遣する熱帯医学短期研修を引き続き実施する。 ⑦ 令和3年度に更新予定の電子カルテシステムおよび部門システムについて、WGを立ち上げ導入に向けて多角的に検討を行う。

中期目標(内容)	小児医療、周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、中核的な小児総合医療施設としての医療機能の充実を図ること。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組みを進めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、川崎病（176例）及び先天性心疾患に係る手術症例（91例）について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が5年連続で全国一位となった。 臨床研究について、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、10件（うち研究代表4件）の研究に参加した。 治験業務については、強化・充実を図り、アクティブプロトコル24件（うち新規5件）を実施し、新たに19名の患者へ治験を開始した。 ② 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、昨年度に引き続き、医療英語・中国語研修を開催するとともに、7月より新たにフランス語研修を開始した。（3か国語計延べ24回開催） ③ 3月に脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを各1回実施するとともに、12月に外部講師による講演会の開催や「心停止者からの臓器提供に関する手順書」を新たに策定した。 ④ コロナの影響により、企業の訪問などの働きかけは中止としたが、過去に寄付をいただいた企業に対して40周年記念誌を送付するなどの情報発信を行った。 また、マクドナルド財団主催のイベントについて、病院公式SNSを通じて発信する等、広報活動の支援を積極的に行った。 ⑤ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進めた。 ⑥ コロナの影響により、熱帯感染症等の診断と治療を実践的に学ぶためのタイ王国のチュラロンコン大学が主催する熱帯医学短期研修への派遣は中止となった。 ⑦ 7月に多職種で構成する医療情報システム導入検討PJ会議を立ち上げ、次期システムの構成等について多角的な検討を行い、令和3年度の更新準備を進めた。	2	4	4	○ 臨床研究や治験業務の推進、国際的な視野に立った人材育成などに積極的に取り組んでいる。 ○ 新たに科学研究費助成事業研究に採択された研究への参加、新規案件開始につながった治験業務の強化・充実、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の更なる向上などに取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献するなど、医療機能の充実が図られた。 特に川崎病センターの症例数や先天性心疾患に係る手術症例数が5年連続全国1位となったほか、新たにフランス語研修を開始し、職員の外国語能力の更なる向上を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標（項目）	第4 その他業務運営に関する重要事項 2 福岡市民病院における経営改善の推進
中期計画	年度計画
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置 2 福岡市民病院における経営改善の推進 ① 高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療を提供するなど、市立病院として求められる役割を果たすとともに、経営の効率化に努める。 また、地域医療計画における当院の立場を十分に認識し、地域包括ケアシステムの中で急性期病院が果たすべき役割について必要な取組を行う。 ② 将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、施設・設備の計画的な維持管理に取り組む。	2 福岡市民病院における経営改善の推進 ① 公立病院に求められる、高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療を提供するため、医療資源の効率的な活用を図り、収支改善に努める。また、他医療機関において対応が困難な救急患者の受入や、在宅患者の緊急時入院受入等を積極的に行うとともに、院外も含めた医療従事者への教育研修に取り組み、地域の医療水準向上に寄与することで地域包括ケアシステムにおける地域の基幹病院としての役割を果たす。 ② 中長期修繕計画に基づき、施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえ、当該計画を適宜見直し、施設・設備の適切な維持管理に取り組む。

中期目標（内容）	福岡市民病院については、平成27年度に総務省から優良事例として選定されるなど、地方独立行政法人化後の第1期・第2期にわたり、順調にその経営改善が図られたところであるが、引き続き福岡市の厳しい財政状況を踏まえ、経営の効率化に努めること。 また、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組むこと。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 第4期中期目標期間に達成すべき経営改善計画を作成し、その中で、今年度から実施可能な取組として、I C U（集中治療室）・救急プロジェクトの立ち上げ、エリア別競合病院の調査などの収益確保策、人員配置適正化や診療材料費削減に向けた検討などの費用削減策に着手した。 しかしながら、コロナ対応に病院全体で取り組む中で、思うような対策を講じることが難しく、経営改善計画の院内での共有は図れたものの、一部の取組については実施までには至らなかった。 また、コロナの影響により、コロナ患者受入れのため4病棟ある一般病棟（186床）のうちの1病棟（49床）をコロナ専用として受入病床の確保を求められたことによる患者数の減少に加え、患者の受診控えの影響や、一時期の手術制限等に伴う医業収益の減収と、コロナ対応に必要な経費の増加により、医業収支が大幅に悪化した。 一方で、コロナ対応については福岡市における中核的な役割を果たしながら、当院の使命である高度専門医療、救急医療の提供を途切れさせないため、コロナ対応以外の一般病棟等において診療科の区別なく患者を受け入れ、年平均94.1%、特に下半期は平均96.4%の病床利用率を維持するとともに、機器を導入して新たな手術手技を取り入れるなど、様々な制約下において可能な限りの医業収益確保に極力努めた。 合わせて、C O P（Cost Optimization）チームを中心に、可能な限り診療材料費の縮減に向けた取組を行った。 また、国や県のコロナ関連補助金によりコロナ対応で必要となる経費等の補填に活用し、経常収支は黒字となった。 一方で、地域包括ケアシステムにおける地域の基幹病院として、救急患者の受入れや、	2	3	4	○ 高度専門医療や高度救急医療の提供など、求められる役割を果たしながら、収益向上及び経費削減による収支改善、中長期修繕計画の見直しや計画的な施設・設備の維持管理などに取り組んでいる。 ○ コロナ禍において、通常医療を途切れさせず、一般病床の病床稼働率を高水準に保つとともに、一般病床のコロナ病床への転化や医療スタッフの柔軟な配置など医療資源を効率的に活用し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たした。収支面では、コロナ対策に伴う国や県からの補助金交付もあり、経常収支の黒字化を達成するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
在宅患者の緊急時の入院受入等を積極的に行うとともに、オンラインイベントシステムを活用し、コロナ禍にあっても可能な限り、院内外の医療従事者等への教育研修に取り組むなど、その役割を着実に果たした。 ② 修繕項目の絞り込みなど、中長期修繕計画の見直しを行い、ボイラー設備、高架水槽、厨房空調機器など必須のものについては着実に更新作業を完了させるとともに、高度専門医療の提供に必要な医療機器を購入するなど、必要な投資を行った。また、重要事項である外壁補修工事については、実施設計を終え、令和3年度に着工予定となった。 【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響により、患者数や手術件数の減少、コロナ対応に必要な経費の増加に加え、経営改善計画に基づく収益確保や経費削減に係る対策の実施が制限されたため、医業収支は大幅に悪化した。 しかしながら、当院に求められる「高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療の提供」については、コロナ対応において福岡市の中核的な役割を果たすとともに、通常医療を途切れさせないため、病院一丸となって取り組んだ。 その結果、コロナ対応以外の病床利用率や、入院診療単価は高い水準となった。 また、国や県の補助金により、コロナ対応で増加した経費を補填するなど、経常収支については黒字転換となった。 高度専門医療、救急医療の提供を維持しながら、コロナ対応では福岡市の中核病院として大きな役割を果たすとともに、福岡県においても重点医療機関として積極的な対応を行ったが、医業収支が悪化したことを踏まえ、自己評価は「3」とする。				

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（令和2年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収入			
営業収益	17,622	17,983	361
医業収益	15,833	14,416	△ 1,417
運営費負担金収益	1,612	1,612	0
補助金等収益	96	1,862	1,766
寄付金収益	5	10	5
受託収益	76	83	7
営業外収益	204	184	△ 20
運営費負担金収益	81	81	－
補助金等収益	4	1	△ 3
その他営業外収益	118	102	△ 17
資本収入	307	423	117
長期借入金	－	－	－
運営費負担金	307	307	0
寄付金	－	－	－
補助金等	－	117	117
その他の収入	－	－	－
計	18,133	18,590	458
支出			
営業費用	15,888	15,800	△ 87
医業費用	15,731	15,657	△ 73
給与費	9,214	9,438	225
材料費	3,680	3,473	△ 207
経費	2,718	2,689	△ 29
研究研修費	118	57	△ 62
一般管理費	157	143	△ 14
給与費	101	105	4
経費	56	38	△ 17
営業外費用	181	182	2
資本支出	2,564	2,220	△ 344
建設改良費	1,713	1,368	△ 344
償還金	851	851	0
その他の支出	－	37	37
計	18,632	18,240	△ 393

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

2 収支計画（令和2年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収益の部	18,240	18,683	443
営業収益	18,036	18,400	364
医業収益	15,833	14,400	△ 1,433
運営費負担金収益	1,612	1,612	0
補助金収益	96	1,862	1,766
寄附金収益	5	10	5
資産見返負債戻入	414	440	26
受託収益	76	76	0
営業外収益	204	176	△ 28
運営費負担金収益	81	81	—
その他営業外収益	122	94	△ 28
臨時利益	—	108	108
費用の部	17,681	17,502	△ 179
営業費用	17,501	17,283	△ 218
医業費用	17,284	16,539	△ 745
給与費	9,421	9,624	204
材料費	3,680	3,133	△ 547
経費	2,723	2,465	△ 258
減価償却費	1,340	1,261	△ 79
資産減耗費	1	3	1
研究研修費	118	53	△ 65
一般管理費	163	145	△ 18
その他営業費用	53	599	545
営業外費用	181	182	2
臨時損失	—	37	37
純利益	559	1,181	623
目的積立金取崩額	—	—	—
総利益	559	1,181	623

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 資金計画（令和2年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
資金収入	22,960	22,434	△ 526
業務活動による収入	17,826	17,118	△ 708
診療業務による収入	15,833	14,034	△ 1,800
運営費負担金による収入	1,693	1,693	0
その他の業務活動による収入	299	1,391	1,092
投資活動による収入	307	1,651	1,344
運営費負担金による収入	307	307	0
その他の投資活動による収入	—	1,344	1,344
財務活動による収入	—	—	—
長期借入れによる収入	—	—	—
その他の財務活動による収入	—	—	—
前事業年度からの繰越金	4,827	3,665	△ 1,162
資金支出	22,960	22,434	△ 526
業務活動による支出	16,068	16,104	36
給与費支出	9,315	9,493	178
材料費支出	3,680	3,204	△ 477
その他の業務活動による支出	3,073	3,407	334
投資活動による支出	1,594	2,123	529
有形固定資産取得による支出	1,594	633	△ 961
無形固定資産取得による支出	—	263	263
その他の投資活動による支出	—	1,227	1,227
財務活動による支出	970	974	4
長期借入金の返済による支出	625	625	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	226	226	0
その他の財務活動による支出	119	123	4
翌事業年度への繰越金	4,328	3,232	△ 1,095

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
重要な財産を譲渡する計画 土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	なし	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	令和2年度は、決算において剰余を生じたので、令和3年度以降における病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる予定である。

第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実 績																		
1 施設及び設備に関する計画 (平成29年度から平成32年度まで) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>4,573</td><td>福岡市長期借 入金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	4,573	福岡市長期借 入金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和2年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>1,713</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	1,713	前中期目標期間 繰越積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和2年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>1,368</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	決定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	1,368	前中期目標期間 繰越積立金等
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	4,573	福岡市長期借 入金等																		
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	1,713	前中期目標期間 繰越積立金等																		
施設及び設備 の内容	決定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	1,368	前中期目標期間 繰越積立金等																		
2 人事に関する計画 人事評価の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 医師以外の管理職を対象に、モチベーションの向上を目的とした人事評価制度（管理職目標管理制度）を令和2年4月から導入した。 また、事務の新規採用職員（3名）を対象に、社会人として必要な考え方・基本行動の体得等を目的とした外部のWeb研修を受講した。 各病院においてもWeb等を活用した院内研修の実施や外部研修の受講を推進するなど研修体制の充実に努めた。 人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員を福岡市立こども病院に136人、福岡市民病院に105人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。 ※有期職員の人数は令和2年5月1日現在																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 28 条第 1 項各号の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。

2 評価方法

- (1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度の終了後 3 月以内に、法第 28 条第 2 項及び地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則第 8 条に定める報告書（以下「業務実績報告書」という。）を市長に提出するものとする。

- (2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、別途、実施要領で定める項目を評価単位とする「項目別評価」と、それを踏まえた「全体評価」により評価を行うものとする。

評価は、毎事業年度の終了後に実施する「年度評価」、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間見込評価」及び中期目標の期間の最後の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間評価」とする。

① 年度評価

当該事業年度における業務の実績について「項目別評価（小項目評価及び大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

② 中期目標期間見込評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

③ 中期目標期間評価

中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

3 評価結果等の活用

- (1) 法人は、法第 28 条第 6 項に基づく業務運営の改善等の措置を受けた場合、自主的に必要な措置をとるとともに、法第 29 条に基づき、評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させる。
- (2) 次期中期目標の策定、次期中期計画の認可及び法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標の期間の各事業年度の評価結果を踏まえるものとする。

4 適用時期

この方針は、平成 30 年度に実施する業務実績評価から適用する。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

平成30年6月22日
福岡市長決定

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施するにあたっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成30年6月22日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 評価区分

(1) 全体評価

当該事業年度における業務の実績全体について評価を行う。

(2) 項目別評価

① 大項目評価

法第25条第2項第2号から第5号の各号に基づき、中期目標に掲げる第1から第4の事項について評価を行う。

② 小項目評価

大項目評価で定める評価区分に基づき、別表で定める事項について評価を行う。

2 評価結果の公表

評価の結果は、評価区分ごとに評価結果報告書（別紙1のとおり）にとりまとめ公表する。

3 評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績報告書（別紙2のとおり）を作成する。法人は、各小項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウエイトを設定するものとする。

なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人と

して行うものとする。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価

① 小項目評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

② 大項目評価

市長は、小項目評価の結果を踏まえ、大項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。評価に当たっては、小項目評価の１～５をそれぞれ１点～５点とし、ウェイト換算後の合計を評価点、すべての小項目評価が３の場合の合計を標準点とし、標準点に対する評価点の割合（％）により評価を行うものとする。

また、特筆すべき小項目評価やその他考慮すべき事項がある場合、判断理由を記載する。

評価Ｓ：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある
(市長が特に認める場合)

評価Ａ：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる

(評価点が標準点の 120%以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる

(評価点が標準点の 100%以上 120%未満)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている

(評価点が標準点の 100%未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある

(市長が特に認める場合)

(3) 全体評価

市長は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、病院改革の取組(法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など)を積極的に評価するものとする。

その評価にあたり、項目別評価の結果及びその判断理由とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について記載するものとする。

また、評価に際し改善すべき事項がある場合は記載する。

4 適用時期

この要領は、平成 30 年度に実施する業務実績評価から適用する。

(別表) 項目別評価

大項目	小項目	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
		(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上
		(2) 情報発信
	3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの確保と教育・研修
		(2) 信頼される医療の実践
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	
	2 事務部門の機能強化	
	3 働きがいのある職場環境づくり	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	
第3 財務内容の改善に関する事項	1 経営基盤の強化	(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減
		(2) 投資財源の確保
	2 収支改善	(1) 収益確保
		(2) 費用削減
第4 その他業務運営に関する重要事項	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	